伯友

2020 No.77

目　次

□会長挨拶 …… 藤本久俊（31）…… 1
□会務報告 …… 1
2020年度総会議案審議結果報告
第1号議案　2019年度事業報告 …… 1
第2号議案　2019年度収支決算報告 …… 3
第3号議案　会則の変更の件 …… 4
第4号議案　役員改選の件 …… 4
第5号議案　2020年度事業計画 …… 5
第6号議案　2020年度収支予算 …… 6
□会員探訪
50期　吉田浩一郎氏 …… 7
52期　関本　剛氏 …… 9
それぞれのコロナ禍（ロサンゼルス伯友会＋広報委員会） …… 12
□先生を訪ねて　　石崎裕二先生・森本吉紀先生・植松浩一事務長 …… 15
□同好会だより
俳句伯母野山句会からの報告 …… 近藤　健（32）…… 17
□ WHAT'S UP AT OBANOYAMA （六甲学院の近況）
生徒へのインタビュー　下川奨太君（78期） …… 18
□クラブOB会だより
体操部OB会報告 …… 浅香晃一（29）…… 19
バスケット部OB会報告 …… 植田和雅（20）…… 19
山岳部OB会報告 …… 佐藤俊介（34）…… 20
陸上部OB会報告 …… 稲葉丈人（75）…… 21
サッカー部OB会報告 …… 松下治正（42）…… 21
□同期会だより …… 22
8期、16期、17期、22期、32期、34期、35期、37期、38期
□支部だより
第15回中部支部報告 …… 南　正治（35）…… 25
ロサンゼルス伯友会報告 …… 森下秀明（42）…… 25
デュッセルドルフ伯友会報告 …… 田崎朋広（51）…… 26
□出版案内・本紹介
『アブラハムと神さまと星空と』創世記＜上＞～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇１～
…… 大頭眞一（36）…… 26
『〈嘘〉の政治史 - 生真面目な社会の不真面目な政治』…… 五百旗頭 薫（49）…… 26
『受動喫煙からの解放』…… 藤原唯人（50）…… 27
『成年後見の実務』－フローチャートとポイント－…… 守屋裕介（51）…… 27
『がんになった緩和ケア医が語る「残り２年」の生き方、考え方』…… 関本　剛（52）…… 28
『心理的安全性のつくりかた』…… 石井遼介（61）…… 29
□寄稿・紀行・聴こう
75歳でのキリマンジャロ挑戦 …… 瀬川　滋（20）…… 30
吉村先生ご退職記念の集い …… 岡本信秀（58）…… 33
映画「スパイの妻」を観て …… 近藤　健（32）…… 34
□編集後記 …… 35
□会員の皆様へ …… 36

会　長　挨　拶

六甲伯友会会長

31期　**藤本　久俊**

コロナウィルスが再び猛威をふるっています。ヨーロッパでは、第1波の時より感染者が多く発生していますし、日本でも重症者の割合が増えてきました。皆様つつがなくお過ごしでしょうか。

そのような中、うれしいニュースが飛び込んできました。31期の黒沢清さんが、神戸を舞台とする映画「スパイの妻」で、ヴェネチア映画祭銀獅子賞に輝き、神戸市から芸術文化特別賞の表彰を受けました。

映画監督には、巨匠の大森一樹さん（27期）がいらっしゃいますし、尾崎将也さん（36期）は、脚本家として人気を博しています。クラシック音楽の世界では廣岡克隆さん（50期）等が、バレエ界では堤悠輔さん（57期）が活躍しています。

効率と目の前の成果ばかりが求められる世の中ですが、六甲には、視野を広く保ち、勉強だけでなく、自由にその才能を伸ばしうる、少なくとも、卒業後にはその才能を開花させうる環境を保持し続けてほしいと願わずにいられません。

さて、本年度の伯友会活動ですが、コロナの影響を受け、総会は開催できませんでした。常任幹事会はリモートとリアルを併用して行っていますが、幹事会は中断したままです。

とはいえ、皆さん、工夫を凝らして交流を深めておられます。常任幹事会には60期前後の若い方々が多数参加され、積極的に発言しています。会議後は、少数を心がけつつも飲みに出かけ、友誼を深めておられるようです。大変な時期ではありますが、それだけに深い絆を築いていただければと願っています。

来年の総会と懇親会については、春までにコロナ禍が治まるか、見通しが立っていません。

しかし、担当の53期の諸兄は、コロナが収束していなくても、オンラインを活用する、あるいは開催を秋にずらす等、何らかの工夫をし、懇親会は実施すると強い決意で準備に取り組んで下さっています。

執行部、常任幹事会もその熱い思いを受け止め、必ずや来年の総会、懇親会を成功させる気持ちでおります。

どんな形であれ、来年は、懇親の場を持ちましょう。そして、元気な姿を確認し合い、明日への活力にいたしましょう。

人類は、その英知で、コロナを克服すると信じております。あと少しです。我々も、「Man For Others」の理念で、社会を支えてまいりましょう。

来年の総会、懇親会で、皆様と笑顔でお会いできることを楽しみにしております。

会　務　報　告

2020年度総会議案審議結果報告
（各期幹事による郵送審議）について

新型コロナウィルスの感染拡大状況に鑑み、例外的な措置として、総会審議案件を各期幹事による郵送審議にて行いました。

結果については、下記のとおり第1号～第6号議案はいずれも承認されました。

幹事総数　209名
返　　信　75名
未 返 信　134名（返信のない場合は全ての議案について承認と見なす）

第1号議案　2019年度事業報告の件
　　承認　209名　　否認　0名
第2号議案　2019年度収支決算報告の件
　　承認　209名　　否認　0名
第3号議案　会則の変更の件
　　承認　209名　　否認　0名
第4号議案　役員改選の件
　　承認　208名　　否認　1名
第5号議案　2020年度事業計画の件
　　承認　209名　　否認　0名
第6号議案　2020年度収支予算案の件
　　承認　209名　　否認　0名

第1号議案　2019年度事業報告

● 2019年度末総会員数および終身会員数

	総会員数	終身会費納入者数	末梢者数	終身会員数	年会費納入者数
2019年度末	11,195人	6,664人	382人	6,282人	99人
		新規　200人			延べ　124人
2019年度末	11,095人	6,464人	341人	6,123人	106人
		新規　192人			延べ　136人
増減	100人	200人	41人	159人	△7人
		新規　8人			延べ　12人

●総務委員会

①定時総会　2019 年 5 月 11 日（土）於：神戸ポートピアホテル

②会議運営・資料作成・議事録作成

幹事会　　年 4 回開催

2018 年 4/7(土)、7/ 21(土)、10/13(土)

幹事会　年 4 回開催　2019 年 4/ 6(土) 7/20(土) 10/12(土)*

2020 年　1/18(土)

常任幹事会年 4 回開催　2019 年 6/22(土) 9/28(土) 12/ 6(金)

2020 年　4/ 3(金) *

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催

*10/12(土)の幹事会は台風の為、中止し書面報告のみ実施

*3/21(土)開催予定をコロナウイルス感染拡大の影響により日程変更

③会費の徴収

終身会費納入者　200 人（前年比 8 人増）昨年 192 人

年会費納入者　　99 人（前年比 7 人減）昨年 106 人

④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理

●財政検討特別委員会（2019 年度開催なし）

①財政状況のモニタリング

②収支バランスの継続的検討

●事業委員会

①学校事業への協力

・伯友文庫の充実

・体育祭：運営スタッフの活動支援（2019 年 6 月 8 日）

・バザー：抽選会「伯友会賞」（図書券 5 本）の提供（2019 年 6 月 22 日）

・OB 課外講義：

第 12 回　（2019 年 6 月 28 日）

浜田　有司 氏（神戸市都市局歴史的建築物・空家空地対策担当部長）（33 期）

「神戸の建築・まちづくり行政の現場から」

第 13 回　（2019 年 10 月 25 日）

中口　俊哉 氏（千葉大学フロンティア医工学センター教授）（51 期）

「拡張現実技術の医療応用研究の紹介と学位取得のすすめ」

・強歩会：成績優秀者へのメダル・トロフィ授与（2019 年 11 月 21 日）

・卒業式：卒業生への記念キーホルダー授与（2019 年 2 月 8 日）

②対外事業

・四校対抗サッカー大会　於：上智福岡　（2019 年 10 月 14 日）

・イエズス会校同窓会連絡協議会：第 36 回会議　於：六甲学院

（2019 年 11 月 30 日）

③伯友奨学基金運営

・基金の PR

④東チモールへの支援

・募金の呼びかけ

⑤伯友会の歴史を記録する活動

・六甲学院別館所蔵資料の整理

●広報委員会

①会誌「伯友」74 号（春号）、「伯友」75 号（秋号）発刊

②ホームページ、メールの維持管理

・ウェブサーバー（アマゾンウェブサービス）、ドメイン（hakuyu.jp）ネームサーバ、メールサーバ（Google）SSL サーバ

・ホームページ随時更新

③「伯友会活動のあらまし」77 期生に配布

●会員委員会

①総会懇親会実施

・2019 年 5 月 11 日（土）神戸ポートピアホテルにおいて開催

（208 名参加）

②支部支援

・2019 年 7 月 6 日（土）上智大学学生食堂において関東支部懇親会開催

（137 名参加）

・2019 年 11 月 9 日（土）割烹みどりにおいて第 15 回中部支部懇親会開催

（18 名参加）

③各期同窓会支援

・同窓会通信（案内往復はがき代支援）

（8 期、10 期、13 期、16 期、18 期、22 期、35 期、37 期、38 期）

④伯友会ジュニア（50 歳以下の会員対象）開催

2019 年 4 月 10 日（11 名参加）、2019 年 10 月 25 日（14 名参加）、2019 年 12 月 19 日（14 名参加）、

⑤ 77 期の情報収集

⑥会員名簿の発行準備

＊【参考】関東支部活動

①関東支部新入生・新赴任者歓迎会　（約 40 名参加内

新入生 10 名）於：上智大学 13 号館
②六甲学院生徒東京研修の受入れ（担当 52 期）
2019 年 7 月 15 日（月）～17 日（水）
③イエズス会姉妹校 4 校長パネルトーク
2019 年 9 月 18 日（水）於：上智大学 2 号館 5 階
学生食堂
イエズス会校同窓会連絡会（関東）主催　11 名参加

●情報管理委員会
①事務局の IT 管理
・Windows7 パソコンのサポート切れに伴い、1 台のパソコンを入れ替え。
・故障したパソコン対応の実施。
②常任幹事会・幹事会を関東や在宅者との間でビデオ中継。

第２号議案　2019年度収支決算報告

●単年度収支決算　　2019年4月1日～2020年3月31日

（単位:円）

	決算額	予算額	差異
収入の部			
①会費収入	**9,536,500**	**9,464,500**	**72,000**
・年会費	372,000	300,000	72,000
・終身会費普通繰入金	6,975,000	6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	2,189,500	2,189,500	0
②入会金	**64,000**	**0**	**64,000**
・新入会員入会金(8人)	64,000	0	64,000
③雑収入	**85,462**	**61,500**	**23,962**
・預金利息	12	500	△ 488
・雑収入	85,450	61,000	24,450
・寄付収入	0	0	0
・預り金	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費(広告収入等)	**140,000**	**150,000**	**△ 10,000**
・名簿広告収入	0	0	0
・広報誌広告収入	140,000	150,000	△ 10,000
当期収入合計	**9,825,962**	**9,676,000**	**149,962**

（単位:円）

	決算額	予算額	差異
支出の部			
①一般管理費	**2,992,197**	**3,186,000**	**△ 193,803**
・通信費	399,971	360,000	39,971
・事務局員報酬	1,870,180	2,000,000	△ 129,820
・事務備品費	425,092	460,000	△ 34,908
・事務局警備費	104,480	106,000	△ 1,520
・慶弔費	2,780	30,000	△ 27,220
・交通費	112,640	150,000	△ 37,360
・プロバイダー使用料	77,054	80,000	△ 2,946
②事業費	**5,914,266**	**5,990,000**	**△ 75,734**
・総務委員会	**177,053**	**300,000**	**△ 122,947**
会議費	177,053	300,000	△ 122,947
・事業委員会	**571,414**	**655,000**	**△ 83,586**
学校事業協力費	117,186	145,000	△ 27,814
記念品制作費	300,462	340,000	△ 39,538
対外事業費	153,766	170,000	△ 16,234
・広報委員会	**2,844,065**	**2,805,000**	**39,065**
広報誌作成費	1,210,584	1,100,000	110,584
広報誌発送費	1,298,825	1,350,000	△ 51,175
インターネット維持費	286,146	300,000	△ 13,854
伯友会活動のあらまし制作費	48,510	55,000	△ 6,490
・会員委員会	**1,251,734**	**1,160,000**	**91,734**
調査費	0	10,000	△ 10,000
名簿発送費	9,440	10,000	△ 560
会員交流事業費	485,517	500,000	△ 14,483
同期会援助費	87,777	80,000	7,777
支部援助費	380,000	380,000	0
懇親会参加促進費	250,000	130,000	120,000
伯友会ジュニア促進費	39,000	50,000	△ 11,000
・情報管理委員会	**70,000**	**70,000**	**0**
システム保守費	70,000	70,000	0
・その他	**1,000,000**	**1,000,000**	**0**
伯友チャレンジ基金拠出金	1,000,000	1,000,000	0
③予備費	**219,960**	**500,000**	**△ 280,040**
予備費　※2	219,960	500,000	△ 280,040
合計	**9,126,423**	**9,676,000**	**△ 549,577**
④繰越金(総合収支計算書へ繰入)	**699,539**	**0**	**699,539**
当期支出合計	**9,825,962**	**9,676,000**	**149,962**

※2　予備費は、事務局電話工事73,440円及びパソコン（設置費含む）146,520円

●総合収支決算　　2019年4月1日～2020年3月31日

（単位:円）

	決算額	予算額	差異
①単年度終身会費収支高	**580,039**	**△ 1,514,500**	**2,094,539**
・終身会費当期納入額(200人)※1	9,045,000	7,650,000	1,395,000
・終身会費普通繰入金	△ 6,975,000	△ 6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	△ 2,189,500	△ 2,189,500	0
・当年度繰越金	699,539	0	699,539
②前年度繰越金	**44,847,998**	**44,847,998**	**0**
次年度繰越金(①+②)	**45,428,037**	**43,333,498**	**2,094,539**

財産目録

2020年3月31日現在

（単位:円）

	当年度	前年度	増減
合計	**45,428,037**	**44,847,998**	**580,039**
・現金	74,369	155,416	
・郵便局　(会費納入受入口座)	21,830,674	20,130,114	
・普通預金/六甲伯友会 (会費納入受入口座)	7,695,000	7,647,000	
・普通預金/決済用普通預金	14,868,883	16,221,883	
・普通預金/伯友会3	959,111	693,585	

伯友基金口座在高

2020年3月31日現在

（単位:円）

	金額
普通預金　三井住友／六甲	**2,999,934**
前年度繰越金	2,999,909
寄付収入	100,000
預金利息	25
六甲学院へ支払い	※ 100,000

※東ティモールの聖イグナチオ学院 援助のため

伯友奨学基金口座在高

2020年3月31日現在

（単位:円）

	金額
普通預金　三井住友／六甲	**5,948,437**
前年度繰越金	6,014,185
六甲伯友会からの繰入	0
寄付収入	395,052
預金利息	0
六甲学院へ支払い	460,800

伯友チャレンジ基金口座在高

2020年3月31日現在

（単位:円）

	金額
普通預金　三井住友／六甲	**1,000,002**
前年度繰越金	0
六甲伯友会からの繰入	1,000,000
寄付収入	0
預金利息	2
支払い	0

第3号議案　会則の変更の件

会則の一部変更について

以下のとおり会則を変更したいと思います。（変更箇所は下線で記載しています）

（六甲伯友会会則　新旧対照表）

新	旧
第５条（会員） 本会は、下記会員をもって組織する。 ①正会員　旧制六甲中学校、六甲中学校、<u>六甲学院中学校</u>、六甲高等学校、<u>六甲学院高等学校</u>の卒業生及びこれに準ずる者 ②特別会員　母校の現教職員及び幹事会の推薦する旧教職員 ③名誉会員　幹事会の推薦する本会の活動に対する貢献度が顕著な者 第６条（役員の種類と任期） １．本会には下記の役員を置く ①会長　１名 ②副会長　６名以内 ③常任幹事　<u>30 名以内</u> ④幹事　各期若干名 ⑤名誉顧問　若干名 ⑥顧問　若干名 ⑦監査役　２名 ２．役員の任期は３年を１期とする。 ３．期の半ばであっても欠員の出来た役員の補充並びに増員を行うことが出来る。ただし、その役員の任期はその期の末日までとする。	第５条（会員） 本会は、下記会員をもって組織する。 ①正会員　旧制六甲中学校、六甲中学校、六甲高等学校の卒業生及びこれに準ずる者 ②特別会員　母校の現教職員及び幹事会の推薦する旧教職員 ③名誉会員　幹事会の推薦する本会の活動に対する貢献度が顕著な者 第６条（役員の種類と任期） １．本会には下記の役員を置く ①会長　１名 ②副会長　６名以内 ③常任幹事　<u>25 名以内</u> ④幹事　各期若干名 ⑤名誉顧問　若干名 ⑥顧問　若干名 ⑦監査役　２名 ２．役員の任期は３年を１期とする。 ３．期の半ばであっても欠員の出来た役員の補充並びに増員を行うことが出来る。ただし、その役員の任期はその期の末日までとする

第4号議案　役員改選の件

●役員改選について

本年度は役員改選期にあたるため別紙「六甲伯友会役員（案）」の通り、役員の改選を行います。新役員の任期は 2020 年度から 2022 年度の 3 年間となります。

なお、委員会の構成については総会議決事項ではありませんが、あわせて報告させて頂きます。

六甲伯友会役員（案）

2020年度

職務名	職務分掌	名前				
会長		藤本　久俊　31				
副会長	会長補佐、会務代行、各委員会担当	塩村　仁　30 山本　裕計　43	近藤　健　32	浜田　有司　33	三千　敏弘　36	樋口　隆之　39
常任幹事		浅沼　清之　13 竹内　信介　25 井上　洋一　33 岡本　剣　46 藤原　唯人　50 木村　修大　59	船井　孝祐　18 安東　寛泰　27 大加戸　彰彦　34 森本　謙　49 石井　宏武　54 高端　恭輔　60	宇都宮　光　20 濱田　誠剛　27 林　豊　34 青田　雄弘　50 日野　哲志　55 増田　哲也　61	湯川　昌明　23 豊田　巌　28 松下　治正　42 東田　展明　50 清水　彰　58 荒木　建人　66	横山　幹夫　24 北野　友之　31 渡辺　喜弘　44 藤枝　誠　50 西村　紘一　58 柴原　誠　74
名誉顧問		粟本　昭夫 松浦　明生　26	外川　直見　14 古泉　肇　30	曽根　忠明　7	清水　弘	濵崎　宗一
顧問		雀部　昌吾　5	長森　健　8	田嶋　紀雄　15	五百旗頭 真　19	石光　一郎　24
監査役		中西　敏雄　12	相沢　紘一　16			

六甲伯友会委員会

委員会名	職務分掌	委員長	副委員長			担当副会長
総務委員会	現金管理、資料保管、会計、会議運営、資料作成、総会議事、基金管理、他	森本　謙　49	清水　彰　58	西村　紘一　58		浜田　有司　33
事業委員会	学校協力事業・対外的事業、四校同窓会連絡会、基金の募集・活用、他	岡本　剣　46	青田　雄弘　50	小笠原　崇史　56		山本　裕計　43
広報委員会	会報発行、ホームページ管理、メール管理、他	松下　治正　42	森下　秀明　42 柴原　誠　74	小幡　成雄　43	藤枝　誠　50	樋口　隆之　39
会員委員会	名簿管理、名簿作成、会員情報の収集、会員親睦事業、同期会・同好会・クラブOB会・支部援助、他	渡辺　喜弘　44	川原　弘行　50	山本　浩之　50	石井　宏武　54	三千　敏弘　36
情報管理委員会	会員情報システムの改善・維持・管理	藤原　唯人　50	荒木　建人　66			浜田　有司　33

第５号議案　2020年度事業計画

●総務委員会

①定時総会　コロナウイルス拡大の影響により中止。
（総会に代えて幹事による郵送議案審議を実施）

②会議運営・資料作成・議事録作成

幹事会　年４回開催 2020 年 4/4(土)* 7/11(土) 10/17(土)
2021 年 1/16(土)

常任幹事会年４回開催 2020 年 6/27(土) 9/26(土) 12/ 4(金)
2021 年 3/20(土)

上記日程にて幹事会、常任幹事会を開催予定。

* コロナウイルス感染拡大の影響により書面報告のみの実施

他の予定もコロナウイルス感染状況によっては見直す可能性あり。

③会費の徴収

④本会計・伯友基金・伯友奨学基金・伯友チャレンジ基金の管理

⑤インターネットによる会議参加を意識した会議進行の検討。

●財政検討特別委員会（必要に応じて開催）

①財政状況のモニタリング

②収支バランスの継続的検討

●事業委員会

①学校事業への協力

・伯友文庫の充実
・OB 課外講義の実施（年１回）
・バザー協力：抽選会「伯友会賞」の提供
・体育祭：運営スタッフの活動支援
・強歩会：成績優秀者へのメダル・トロフィー授与
・卒業式：卒業生への記念キーホルダー授与

②対外事業

・イエズス会校同窓会連絡協議会：第 37 回会議
於 上智大学
・四校対抗サッカー大会：於 六甲学院
・東ティモールへの支援募金呼びかけ

③伯友奨学基金造成

・基金の PR

④伯友会の歴史を記録する活動（広報委員会との共同作業）

・六甲学院別館所蔵資料の整理

●広報委員会

① 会誌伯友 76 号（春号）、77 号（秋号）発刊予定。

② ホームページ、メールの維持管理

Web サーバ、ドメイン、メールサーバ、SSL の維持管理、ホームページの充実化（無料告知ページ設置等）

③「同窓会活動のあらまし」発行、78 期生に配布（200 部）

④クラシファイド広告の実施

伯友 WEB サイトにお仕事などの情報を掲載してもらうことで「六甲繋がり」を閲覧者に提供するのが目的（情報提供なので広告費はいただかない）

⑤伯友会の歴史を記録する活動（事業員会との共同作業）

・六甲学院別館所蔵資料の整理

●会員委員会

①総会懇親会実施支援

②支部活動支援

③各期同窓会支援

④伯友会ジュニア活動支援

⑤ 78 期の情報収集

⑥会員名簿の発行に向けての作業

＜会員名簿について＞

2020 年度発行予定の会員名簿は、当初の計画通り 11 月中には発送できる予定です。

2019 年度の伯友会総会で承認されました通り、今回より①伯友会会員で　②会費納入者で　③名簿を希望される会員に　④有償で販売する、という事になっております。また伯友会の財政見直しの観点から今回より株式会社サラト様へ名簿発行の業務委託を行い、仮に名簿が一冊も売れなくても伯友会からの費用負担が一切発生しない契約を結びました。なお、この契約では名簿販売収入や広告収入等が一定以上あった場合、所定の金額が株式会社サラト様より伯友会に支払われることとなっております。10 月中旬時点で名簿の販売数こそ当初予定より若干少ないのですが、広告と賛助金の申し込みが予想をかなり上回っており、最終的には名簿発行における収支はプラスになる見込みです。名簿発行に多大なご協力を頂き、誠にありがとうございました。

第6号議案　2019年度収支予算

●単年度収支予算案　　2020年4月1日～2021年3月31日

（単位：円）

	予算額(A)	2019年度 決算額	2019年度 予算額(B)	増減 (A)-(B)
収入の部				
①会費収入	**8,658,500**	**9,536,500**	**9,464,500**	**△ 806,000**
・年会費	300,000	372,000	300,000	0
・終身会費普通繰入金	6,975,000	6,975,000	6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	1,383,500	2,189,500	2,189,500	△ 806,000
②入会金	**0**	**64,000**	**0**	**0**
・新会員入会金	0	64,000	0	0
③雑収入	**5,500**	**85,462**	**61,500**	**△ 56,000**
・預金利息	500	12	500	0
・雑収入	5,000	85,450	61,000	△ 56,000
・寄付収入	0	0	0	0
・預り金	0	0	0	0
④名簿・広報誌制作協力費（広告収入等）	**270,000**	**140,000**	**150,000**	**120,000**
・名簿広告収入	0	0	0	0
・名簿販売収入	120,000	—	—	120,000
・広報誌広告収入	150,000	140,000	150,000	0
当期収入合計	**8,934,000**	**9,825,962**	**9,676,000**	**△ 742,000**

●総合収支予算案　　2020年4月1日～2021年3月31日

（単位：円）

	予算額(A)	2019年度 決算額	2019年度 予算額(B)	増減 (A)-(B)
①単年度終身会費収支高	**△ 708,500**	**580,039**	**△ 1,514,500**	**806,000**
・終身会費当期納入額	7,650,000	9,045,000	7,650,000	0
・終身会費普通繰入金	△ 6,975,000	△ 6,975,000	△ 6,975,000	0
・終身会費特別繰入金	△ 1,383,500	△ 2,189,500	△ 2,189,500	806,000
・当年度繰越金	0	699,539	0	0
②前年度繰越金	**45,428,037**	**44,847,998**	**44,847,998**	**580,039**
次年度繰越金（①＋②）	**44,719,537**	**45,428,037**	**43,333,498**	**1,386,039**

※1 終身会費普通繰入金　新卒業生見込(160－5)名×45,000＝6,975,000円（予算の目安として）

（単位：円）

	予算額(A)	2019年度 決算額	2019年度 予算額(B)	増減 (A)-(B)
支出の部				
①一般管理費	**4,090,000**	**2,992,197**	**3,186,000**	**904,000**
・通信費　※2	1,100,000	399,971	360,000	740,000
・事務局員報酬	2,000,000	1,870,180	2,000,000	0
・事務備品費	624,000	425,092	460,000	164,000
・事務局警備費	106,000	104,480	106,000	0
・慶弔費	30,000	2,780	30,000	0
・交通費	150,000	112,640	150,000	0
・プロバイダー使用料	80,000	77,054	80,000	0
②事業費	**4,344,000**	**4,914,266**	**5,990,000**	**△ 1,646,000**
・総務委員会	**300,000**	**177,053**	**300,000**	**0**
会議費	300,000	177,053	300,000	0
・事業委員会	**598,000**	**571,414**	**655,000**	**△ 57,000**
学校事業協力費	115,000	117,186	145,000	△ 30,000
記念品制作費	340,000	300,462	340,000	0
対外事業費	43,000	153,766	170,000	△ 127,000
伯友会の歴史を残す活動	100,000	—	—	100,000
・広報委員会	**2,185,000**	**2,844,065**	**2,805,000**	**△ 620,000**
広報誌作成費	850,000	1,210,584	1,100,000	△ 250,000
広報誌発送費	980,000	1,298,825	1,350,000	△ 370,000
インターネット維持費	300,000	286,146	300,000	0
伯友会活動のあらまし制作費	55,000	48,510	55,000	0
・会員委員会	**1,061,000**	**1,251,734**	**1,160,000**	**△ 99,000**
調査費	10,000	0	10,000	0
名簿作成費	20,000	0	0	20,000
名簿発送費	21,000	9,440	10,000	11,000
会員交流事業費	500,000	485,517	500,000	0
同期会援助費	80,000	87,777	80,000	0
支部援助費	380,000	380,000	380,000	0
懇親会参加促進費	0	250,000	130,000	△ 130,000
伯友会ジュニア促進費	50,000	39,000	50,000	0
・情報管理委員会	**200,000**	**70,000**	**70,000**	**130,000**
システム保守費　※3	200,000	70,000	70,000	130,000
・その他	**0**	**0**	**1,000,000**	**△ 1,000,000**
伯友チャレンジ基金拠出金	—	—	1,000,000	△ 1,000,000
③予備費	**500,000**	**219,960**	**500,000**	**0**
予備費	500,000	219,960	500,000	0
合計	**8,934,000**	**8,126,423**	**9,676,000**	**△ 742,000**
④繰越金	0	699,539	0	0
当期支出合計	**8,934,000**	**8,825,962**	**9,676,000**	**△ 742,000**

※2　通信費は、総会中止案内郵便代700,000円を含む

※3　システム保守費は、会員データベースの更新料130,000円を含む

■情報管理委員会

事務局のパソコン管理

Windows7 パソコンの買い替え、パソコン修理の手配、事務局からの問い合わせ対応を実施しました。

■総務委員会

新型コロナウィルス感染症拡大の影響により定時総会の開催を中止し、代わりに各期幹事の方に書面による審議をお願いしました。

また、生徒研修所の使用人数が制限されていることなどのため、今年度の常任幹事会は会場とオンラインを併用して開催しておりますが、幹事会はまだ一度も開催できておりません。

ご迷惑をおかけしておりますが、ご了承ください。

■会誌「伯友」秋号の発送について

会誌「伯友」秋号は、今号（77 号）から、会誌の送付を希望される方のみにお送りしています。

なお、六甲学院を卒業後 4 年間は、全員に送付いたします（77 号の全員発送対象は 74 期～77 期）。74 期生で、来年以降も会誌「伯友」秋号の送付を希望される方は、他の期の人達と同様に、

www.hakuyu.jp/contact/ 秋号送付に関して /

からお申し出ください。

※お申し出がなくても、卒業後 4 年間は発送いたします。

また、発送を希望されない場合でも、六甲伯友会ホームページ（www.hakuyu.jp）にて、PDF で会誌を配信しています。また、リアルタイムな情報も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

会員探訪

この欄では、各界で活躍する伯友会会員の会社や事務所などを訪問し、直接本人から話を聞くという、突撃インタビューです。会員の生の声をお伝えしたいと思います。

ファイル No.	20021
氏　　名	吉田浩一郎（よしだこういちろう）
六甲時代	50 期　軟式テニス部

株式会社クラウドワークス
代表取締役社長 CEO

ウィズコロナ時代に突入する中、働き方の変化が必要になってきている。リスクを回避しながら組織集団で高い生産性を上げ続けていくにはどのような働き方が良いのか、企業ごとに模索している状況である。リモートワークに舵を切り、オフィス面積を縮小して固定費を抑える企業も出てきている。あるいは業務形態によってリモートワーク、オフィスワークを併用してミックスしながら運営していく企業もある。リアル・リモートそれぞれのメリット・デメリットも顕在化してきている。5 年後、10 年後、我々の働き方はどのように変化していくのか、だれもが注目するこのテーマを吉田浩一郎氏に語っていただきました。

――クラウドワークスの現状の働き方について、何か変わってきたなと感じていることはありますか？

「働き方をイノベーションする」という会社のポリシーがあるので、2019 年 7 月からフルリモート、フルフレックス制度というのを立ち上げていて、全ての社員がチーム単位で合意すれば、週 5 日のリモートチームも可能ですし、フルフレックスなので業務の開始・終了時間を自身で選択することも可能です。ですので、コロナ禍後でもやることは別に変わらず、リモートが多めの形にスムーズに移行した感じです。現在の働き方では、7 月の出社率を計測したところ約 32% でした。1/3 くらいの出社率なので、本社オフィスは半分解約することを決定しました。チームごとに特色があって、基本的に出社にしようというチームもあります。週 3〜4 日出社して顔を合わせているチームもあれば、週 5 日リモートで、一切会社に来ていないというチームもあります。

働き方が大きく変わったと思うのは、高度経済成長の時は未来に希望があり、未来のために現在を犠牲にするという働き方が多分主流で、「あなたは解ってない」とか「あなたは経験を積んでいないから、まず経験を積みなさい」という、現在を否定するアプローチが主体だったのですけど、今は未来に希望があるかどうかは良く解らないという時代なので、現在を肯定するというマネジメントをしていかないといけないと思っています。

現在を肯定するということは、新卒であろうがアルバイトであろうが、現在のあなたに誇りを持って欲しい、あなたの考えをまず尊重するということからマネジメントが入っていきます。未来が正しいとか、先輩が正しいということであれば、現在のあなたは間違っていると言えるのですけど、そういう保証されたモノが何もない時代なので、今のあなたが納得し、率直で有り続けられる環境作りが重要で大切だと思っています。

悪い例としては、「吉田さんの言うことは全く納得がいかない」というような投稿をする人もいます（爆笑）

――大企業にとってのリモートワークのメリット・デメリットやベストな割合、短期的・中長期的に出社文化はどうなるのかなど、働き方の多様化について、ご意見をお聞かせください。

リモートワークを捉える上で一番いいと思っているフレームワークは、哲学の用語で「真・善・美」というものです。

今まで対面での仕事では「真・善・美」すべて話し合われていたと思います。「真」は事実は何かなので、「真」には主語がないのですが、善悪とか美醜は、私はこれを「善」だと思う、「美しい」と思うという自分の価値観を話さなければならない。大企業が対面でやっていたのは、「自分はこれまでの生き方で、これが良いと思っている」ということを言っていたと思います。ところが今、リモートになって「善・美」が取り扱われなくなってしまった。お互いにリモートで会っていると、深い話というのがやや難しく、上司も相手の状況、例えば忙しいのかどうか、子どもが泣いているのか、どういう状況でミーティングをしているのかが全然分からないので、業務の要件ベースの話が増えて行くのですね。そうなると「真」だけが扱われるので、「善・美」が劣後されてしまう。これは短期的にはメチャクチャ楽なのです。特に若い方は「真」だけ扱って、「善・美」が問われないのは、個人が脅かされないので、「リモートワークは良いよね」と口を揃えて言います。

おそらく、人間的な成長は、「善・美」の議論なのだと思います。「お前はどうしたいんだ？どうやって成長したいんだ？」ということを問われてこそ、「今しんどいけど、これをやっておけば後々良いのかな」ということがあるのではないでしょうか。また、違う部門の先輩を見て「あの先輩格好いいな。あの人みたいに生きたいな」というロールモデルを探すといったことは、価値観の部類なので、「真」ではないのですね。他人を見て良いと思ったりす

ることは、「善・美」の部分ですが、リモートでは、ほぼ「善・美」が磨かれないので、中長期になればなるほど、「善・美」が蛸壺化していく。自分の価値観が正しいけど、他人は違うという世界です。

先日、宮台真司さんという社会学者にお話を伺う機会がありました。昔は子どもにとっての公園は、ブランコ1つをとってみても、ブランコである必要がなかった。ブランコを飛び越えたり、何人乗れるかとか、サーフボード的に改造したりとか。ブランコという1つのモノを通して、色んな共通体験が新しく生まれていた。砂場も、オモチャ遊びする必要はなくて、ジャンプしたり、ケンカしたり、相撲をしたりしても良かった。それによって共通の身体体験が生まれて、他者への受容性が高まった。一見違うことをやっているようで、「あいつ面白そうだな」とか、「格好いいな」とか。今は、砂場は砂遊びをする場所で、ブランコは座って乗りましょうと、機能を制限すると、身体的な新しい体験も制限される。今、インターネットのせいで身体性が下がっているのではなくて、日本の教育制度や社会制度が劣化していっていて、その結果として、他人に対して受容性が低くなり、ちょっとマスクをしないだけで、「あいつあり得ない」とか「このタイミングで外食しているなんて信じられない」のように、他者に対する許容度がどんどん下がっているのです。リモートによって個人主義が進み、会社の中でも他者への受容性が下がると思います。

大企業というのは「善・美」が多様に詰まっている場所だと思います。色んな人の「善・美」があって、そこに出社するだけで、色んな人たちの価値観に触れられるのが大企業の良さだと思います。今ある大企業は、おそらくこれからは生まれないと考えています。リモートで全てのことがモジュール化し、小さな単位で動かしていくので、これからの時代は大きなインフラは生まれにくいと思います。我々のような会社規模ならリモートを選択して最適化しますから。

――将来をどう見ていますか？5年後、10年後、20年後の働き方の方向性をどう考えていますか？住まいとオフィスは一緒になるでしょうか？シンギュラリティ、モバイルハウス、モバイルオフィスなどについてお話し下さい。

リモートでも、今抱えているストレスというのは、どんどんテクノロジーによって改善されるのだろうなと思っています。そうすると、先ほどの「善・美」の話は、そもそも語られなくなる…。リモート上での友達、恋愛が発展していくと思います。それは、我々が見てきた対面での関係とは全く違う世界が拡がっているんだろうなと。

そうなってくると、人って面倒臭がりなので、機能別の付き合いになると思うのですね。ウチの会社のマネジメントでもやろうとしていますが、いままでは教育とか啓蒙が可能だったのが、リモートではそれが難しいので、相性だけでやっていく。相性が合わなかったら部署異動するという位の感覚です。恋愛・性・結婚の対象はもしかしたらそれぞれ別の相手になるのじゃないかなとも思います。なぜなら、機能的に全て別だからです。人間の付き合いが、恋愛関係も含めて全て機能別に分かれていく世の中になっていくのだろうなと思います。リアルの体験とネットの経験でも分断が起きて、人と対面でばかり会っている人と、ネットでばかり会っている人では、完全に世界が分断されて、分かり合えないという事が起こるかもしれません。リモートだけで転職している人は、リモートだけで友達を作ったり、リアルはリアルの中だけで世界が作られていくので、物理的な土地以外に、リアルとサイバーという掛け算になってきて、サイバーの中でもまた、国が分かれて…といった感じでしょうか。

それは歴史的に見ると、18世紀の産業革命から、資本主義ができた段階で、資本家と労働者に別れたので、おそらく社会の分断のレイヤーが1つ増えただけと捉える方が良いと思います。

GAFAは実体的には国を超えるインフラの存在になっているので、おそらく、今後は…というか既に神のような存在になっていると思いますね。

20年後には、「手触り」を感じて何かをするということが、意識をしていないと殆ど無くなるのじゃないかと思います。「手触り」というのは結構しんどい作業なのでね。子どもに対しても「危ないから触っちゃダメ」とか、今はコロナで「他人に触れるな」とか、「すぐ手を洗え」とか。だから取っ組み合いの喧嘩なんて起こりようがないですよね。「手触り」のない世界の中で、どう新しく社会を作って行くのかという感じになっていくと思います。「手触り」は一部のクリエイターや自然の中で過ごすことを選択した、社会と隔絶した人とか、富裕層とか、そういう人だけになっていくのかなと思います。

航空会社もビジネスクラスのみの飛行機を作ろうという会社が現れていて、一般人は移動しないという可能性も有り得るのかなと思います。移動すると伝染病をうつされるかも知れないし、危なくてしょうがないし、ネットの方がより合理的に旅行できるよねっていう世界が有り得るのかなと。

今、アメリカではデイティングアプリ（出会い系アプリ）での出会いがメインになっていますし、日本でもどんどん需要が高まっています。事前にネットで会って趣味や価値観が絶対に合うと分かった上で、ようやくリアルに会える…みたいな感じです。「取り敢えず会う」というプロセスが、どんどん減ってくるのかなと思います。

――ご自身が思う、六甲教育に於けるメリット・デメリット、伝統と革新、期待などを教えてください。

すごく良かったなと思うのは、カトリックの神父さんがそこにいたということです。今の時代はどうしても短期的な時間軸でしか物事を考えられなくて、スマホで動画を見るのも15秒と

か、長くても３分という世界でしか物事を考えられない中で、あの当時でさえ、なぜ毎日神父さんが「祈りましょう」と言っているのか全然意味が分からなかったけど、その投げかけは、時間の長さの価値を考えさせられるきっかけになっていました。解せない存在が６年間、自分の前に存在したというのは、自分の理解出来ない価値観が世の中にあるとか、自分が理解出来ない時間の長さが世の中にあるということを、神父さんを通して2000~3000年に渡って磨かれている、引き継がれているというのはすごく良いことだと思っています。今でも宗教を通して社会を知ることは続けているので。

私にとって想い出深い先生は、ディアス神父・畑堀先生です。ディアス神父は平和のために祈りましょうとずっと言い続けておられたのと、いつもめちゃくちゃ怒っていた（笑）。試験のペーパーをいつも「吉田、５点！ありえんな！」と床に投げられた。あれだけ本気で怒られる経験というのも自分にとっては貴重で、それくらい真剣に生きている価値観に触れるというのをディアス神父に感じました。私は成績が悪かったので、授業は殆どボイコットして寝てたので、ほとんどの先生に見捨てられていましたが、畑堀先生だけは、「起きてなくても別にいいや」という気持ちを僕に思わせる位に毎回授業で「起きろ」と言い続けてくれました（笑）。ある地点を通り越した時に、なぜ明らかに起きないと分かっているのに、「吉田起きろ」と言い続けるのだろう…と考えるようになりました。卒業してから畑堀先生はすごいなと思っています。そういう信念を持った先生がたくさんいらっしゃいました。若い頃は好奇心とかも移ろいやすく、すぐにくじけたりするので、そういう強い信念を持った先生に触れたというのはすごく良かったです。

36km マラソン（強歩会）は理不尽だと思っていました。自分の「真・善・美」の外に目を向ければ、外の世界は全て理不尽なのですよね。過去に作られた仕組みでの社会であったりするので。今の自分にとって納得できることは１つもないはずなんです。その理不尽さを学校は文化としてずっと持ち続けている。６年間、強歩会をずっと続けて、そこで達成感を得るというのは、社会に対処する方法のサンプルにもなっていると思います。理不尽さに対する耐性というのはどんどん下がっている。納得いく合理性ばかり求めているけど、実際の社会は理不尽の集合体です。そういう意味でも 36km マラソン（強歩会）は良かったと思います。（今回インタビューに参加した人たちと）これだけ世代を離れているのに、共通の話題ができるというのが、まさに共通の経験、身体性ですよね。それが離れていてもお互いが理解をする手がかりなりますよね。

ファイル No.	20022
氏　　名	関本　剛（せきもとごう）
六甲時代	52 期　音楽部

ホームホスピス関本クリニック　院長

今年開催予定だった総会・懇親会の副幹事長であった関本氏にお話をお伺いしました。氏は、総会・懇親会の準備中にご自身の病気が発覚し、著書「がんになった緩和ケア医が語る『残り２年』の生き方、考え方」（本誌出版案内ページ参照）を認められました。インタビューでは、がんとの向き合い方・生き方を、緩和ケア医として、個人としての人生、家族、生と死に対する考え方などを語っていただきました。

我々に、いずれ訪れる死と向き合うことについて、生きることについて考える場とさせていただけたらと思います。

――緩和ケア医の仕事を、やりがいや辛いことなどを含めて教えてください。

もともと消化器内科として経験を積んでまいりました。地域緩和ケア医としては主にがんの患者さんのご自宅での苦痛の緩和や療養の場所に関する意思決定支援を行っています。また、神戸中央市民病院にも週１回緩和ケア内科の非常勤医として勤務し、入院患者さんの苦痛の緩和や退院支援をお手伝いしています。私の診療圏は主に神戸市灘区・東灘区（芦屋）なので、六甲病院や甲南医療センターの緩和ケア病棟と定期的に患者さんの情報をやり取りし、自宅に帰りたい患者さんの退院支援や、自宅での療養に限界を感じた患者さんの入院調整も得意とするところで、地域的に幅広く緩和ケアを行っています。

一人一人、十人十色の人生があり、結末は時としてドラマチックです。それを脇役としてお手伝いし、人生の花道を飾るという仕事の喜びがあります。

難しいところは、まだ緩和ケアと言えば「あの科にかかったらおしまい」とか治療ができなくなってからお世話になるというイメージがあるので、緩和ケア医というだけで患者さんに追い払われることもあります。緩和ケアに対する誤解が無いように、難しい病気が発見された直後から人生の最終段階まで、幅広く苦痛を緩和する科であるという知名度が上がれば良いなと思っています。

――がんがわかった時の心情はどのようなものだったのでしょうか？家族を含めた周囲の反応、自分自身の心境の変化などをお聞かせ頂けますか。

日本人の半分はがんに罹患する時代ですので、いずれ自分も何かのがんになるだろうなとは思っていました。がんは寝たきりの時間が一番短く、私にとっては最もよくわかっている病気なので、私見ですが他の病気になるより、がんになった方がよいと思っていました。しかし、まさかこの年齢で発症するとは思っていなかったというのが正直なところです。自分のCTの画像を見たときは頭が真っ白になり、「これが本当に自分の画像ですか？」と技師さんに聞き直したことを覚えています。

帰宅して玄関に入った途端、妻に「どうしたの」と聞かれる位に重苦しい表情をしていた様で、どのように伝えれば良いのだろうと思っていましたが、伝えた時には妻は泣きくずれ、子供たちも何が起こったのかというような表情で我々を見ていました。上の娘は2歳の時に、私が主治医として緩和ケア病棟で曾祖母を肺がんで看取っていたことを、覚えていてので「お父さんは、ひいおばあちゃんと一緒の病気だから、そんなに長く生きられないわ。ごめんな」と伝えるとショックを受けていたようでしたが、理解が早かったですね。初めは私がベッドで寝ているとすり寄ってきて「死んで欲しくない」と言っていましたけど、親がブレなければ子供もブレなくないもので、2~3週間後にはしっかり消化していました。子供というのは強いものですね。

主治医は患者さんに余命に関して治療開始時には言及しないことも多くなってきたように思います。その人の余命なんて、データでしかなく、目の前の患者さんに当てはまるかどうかは別問題なので、病名の宣告とは違って、余命に関しては言わないことも多いです。生存期間中央値（半数の患者さんが亡くなるまでの期間）というのは、がんの種類や原発臓器別にデータとしてはあるので、治療開始時に私の方から治療医に質問し、あと2年かなというのは解りました。思っていたより短くないが長くもない年数なので、自分としては本気の終活を始める良いキッカケになりました。2年以上生きたら儲けものなので、元々人生80年だと思っていたから、あと2年で40年分楽しもうと思ったのが一つと、楽しむに当たって時間が限られているので、それまで色々忖度して、依頼される仕事は全て受けていたのですが、自分にとって実りのあることや、家族にとって実りのあること、ポジティブになれることは受けていくけど、それ以外は断らないといけないなと思うようになりました。その取捨選択を割り切って出来るようになり、自分の時間・家族との時間を大切にするようになりましたね。

――著書の中で「心が揺れ動く」という言葉がよく出てきますが、揺れ動く時の自分の気持ちの持たせ方や意識の仕方はどの様にされていますか？

治療を受けるに当たって、常にちょっとした希望と絶望の間を行ったり来たりしています。私の場合は脳に転移しているので、脳転移巣が大きくなると直ちに人格が変わったり、麻痺がでたりする恐れがあるので、制御できている間は良いのですが、できなくなるといたずらに寝たきりの時間が長くなってしまうような、私が思い描く中で一番嫌なパターンになり得る可能性があるんです。頭が痛い時、それが薬の副作用によるものなのか腫瘍が大きくなっているからなのかは1～2ヵ月後のMRIの結果を見ないと解りません。解ったところでいつかは対処しようがなくなるので、頭が痛くなるとネガティブな気持ちに支配されたりすることはあります。

多くの患者さんの経過から教えて貰ったことなのですが、「鈍感力」が大切になってきます。他のことに熱中するとアドレナリン（エンドルフィン）が出て、これは脳内モルヒネとも呼ばれているのですが、実際に痛みが和らぎます。私も家族や友達と楽しいことをしたり、仕事に熱中したりすることで、頭痛を忘れられることが多いです。しんどい時にはお笑いや好きな海外ドラマや映画などの動画を観ていますし、音楽部だったので、今でもバンド活動をやっています。趣味でも仕事でも比較的アドレナリンが出る機会が多い方なので、疲れ切らない程度に過ごしているという感じです。患者さんにも「鈍感力が必要なので、治療やこれからの事ばかり考え過ぎずに、好きなことをやる機会を作った方が良いと思いますよ」と言うようにしています。

――著書にも書かれていた映画「最高の人生の見つけ方」に出てくる「棺桶リスト」のように、今一番やりたいことは何ですか？

子供たちが成長したときを想定して、メッセージ動画を撮ろうかなと思っています。成人式や結婚式に私がいてない可能性が非常に高いので。（長女が小4、長男が年長）幸いこの著書のご縁で映像関係の方々と知り合いになれたので、そういうご縁を利用させてもらって撮影していただこうと思っています。早く死ぬのはつらいですが、親としての役目を果たさずに死ぬのはもっと辛いと考えているので、動画を残しておきたいなと思っています。

――六甲に行って良かったと思うこと、逆に嫌だったこと、六甲と今の自分との関係などをお話し頂けますか。

自分が中高の時は「なんでこんなことしないとアカンねん」と思うタイプではなかったので（笑）、中間体操は大好きでしたし、便番も一生懸命してました。今なら親御さんからクレームが来るような男子校のあのノリは、どちらかというと好きな方でした。先輩後輩の関係や、苦楽を共に乗り越えてきた家族に近いような同期間の友情は、六甲で初めに感じたことです。六甲の坂道を登ったり、先生に怒られたりしたあの感覚が、すべての社会生活の基準になっていたと思います。

曽根校長の思い出ですが、高2か高3のクリスマスの時、高3の教室に仲間と泊まり込もうという計画を立てたものの、真夜中にケルクマン先生に見つかってしまい、非常に怒られて強制

送還させられました。その時に曽根校長も来られ、帰り際にニコッとされて、「ナイストライだったよ」と言われたのを覚えています。余裕というか遊びの心を持っている方だと感じましたし、生徒のことをよく観察しておられた校長先生で、今から思えば真のServant Leaderの姿を見たと思いました。社会に出ても六甲で培った上下関係や基本的な挨拶などの姿勢は、すごくポジティブに受け入れられることが多かったので、感謝しています。六甲OBの方とはもちろん、それ以外の方々であっても、六甲流のつきあい方をしていると、すごく喜ばれますね。確かに六甲時代、理不尽なことはたくさんありましたが、僕の周りの六甲の連中は、それをみんなで笑い飛ばせる力、気持ちの余裕、辛い時こそ笑い合えるユーモアを持っていて、そういう精神は六甲で培わせてもらったなと思っています。

偏差値に関する議論はありますが、六甲の情操教育は他に代えがたい6年間を過ごせると思います。中学の受験戦争を勝ち抜いてきた彼らには無限に広がる未来が待っています。自分の限界を決めずに、目標さえしっかり見つければ、それに向かっていけば、なんにでもなれると思うので、諦めずに、なりたいものになって欲しいなと思います。

――――懇親会副幹事長として、病気が分かってからも続けようと思いました？

先ほど、病気を知った後、依頼される仕事は取捨選択するようになったと申しましたが、懇親会の副幹事長は私の好きな仕事の1つで、自分をポジティブにしてくれることでしたので、続けたいと思いました。もちろん2020年4月に元気だったらという条件付きではありましたが、できるだけ続けたいなと思いました。

（懇親会が中止になって）残念に思うことは、今まで企画してきたことが披露できないということでした。しかし、私たち幹事は、もう1年繰り越してでも絶対にやりたいという方針には至りませんでした。それは、卒業以来交流が無かった52期の仲間との新たなつながりが出来たことこそが、我々の新たな財産になったと思えたからです。幹事長の大井君とは、在学中は友達のグループが違ったので一緒に遊んだりすることはほとんどなかったですが、伯友会幹事をするようになってから、よく一緒に飲みに行ったり幹事会に参加をするようになって、新たな52期の絆ができたと感じ、すごくうれしかったですし、伯友会幹事を引き受けたことに対する最大のご褒美だと思っています。

――――関本さんはカトリックの信者であると聞いております。カトリック信者として宗教教育やカトリックの考えが今の自分につながっていること、支えになっていることはありますか？

六甲時代、カト研（カトリック研究会）で活動していると、小林聖心の女の子と知り合いになれるとか（笑）、はじめのうちはそういうことがモチベーションになって参加していたと記憶しています。それから教会に行くようになって、教会で生と死について、六甲生以外のバックボーンの違う人たちとディスカッションしたりしていたことが、今につながっている気がします。公立高校に通っていた2つ上の男性の先輩に、ディスカッションの度にダメ出しをされていたのですが、その人とは今でも家族ぐるみでキャンプに行ったりしています。六甲だけでは経験出来なかったディスカッションを、カトリック教会に行くようになって同時に教えられた気がします。『死生観』で言うと、自分としてはあまりカトリック的な『死生観』よりも、日本古来の「亡くなったらあの世に行って、先に亡くなった人たちに会える」という感覚が強いように思います。「僕が看取ったあの人に会えるかな。そしたら毎日宴会だな」と思うと、年齢に関係なく、死ぬことも悪くないなと思えます。カトリックの信仰とそのような日本特有の死生観を都合良くミックスしているのかなと思います。

ただデーケン先生の「シュテルベンとフェアエンデンの違い」（シュテルベンは人間の死、フェアエンデンは動物の死）という言葉はすごく心に響いています。人間の精神は言葉を持たない動物と違い、死ぬその瞬間まで成長し続けることができるという意味で、私もそうありたいという思いはとても強いです。

病気がきっかけで本を出したのですが、巡り巡って私が大好きな母校の先輩方から、インタビューまでしていただく機会をいただけて、嬉しく思っています。これも病気が自分に与えてくれた成長の1つだと思います。今日は私にとってポジティブな実りある時間でした。この記事が、読まれた方にとって1つでも実りある、ポジティブなものになれば幸いです。

【インタビューを終えて】

卒業から25年で、総会・懇親会の幹事の順番が回って来ます。一番の成果は、それまで付き合いのなかった同期と仲良くなれることだと思いますので、今回開催できなかったのは残念だけど、関本氏の言葉を聞いてホッとしました。　　（20期　宇都宮　光）

仕事というものは人それぞれ違うものであるが、医師という仕事の人間に対する洞察の深さ、心情や精神への分析力・到達力のすごさを感じるとともに、それをひたすら何十年かけて積み重ねてきた関本氏の努力を感じさせられた。「丁寧な仕事」というのは、患者さんに対しても、医療にたいしても、人間に対しても丁寧さを貫いているのだと感じる。そしてその姿勢は六甲教育の賜物であるとも言える。一貫して真摯であり、謙虚であった。人間の心意気の大切さ、人との接し方、話し方、姿勢、学ぶことが多かった。生の六甲精神を感じたのかもしれない。そして確かめたかった、「苦しい時こそ六甲教育が人生の助けになってくれる」と

いう私の仮説を関本氏も立証してくれた。中高の青春の時期に、理不尽さ、時代錯誤をも感じたこの教育の偉大さを、今日また噛みしめる。きっとその仮説はあらゆる卒業生に当てはまるに違いないと感じている。今後も広報委員として様々な卒業生にインタビューを通じて、この仮説を確認させて頂きたいと思う。

関本氏の本を読み、オンラインではあるものの、直接彼と話をする機会を与えて頂いた六甲伯友会に感謝するとともに、この機会を受け入れてくれた関本氏に改めて感謝したい。彼の言葉の１つ１つが六甲卒業生の方々の心に届いて欲しいと願う。そして病と闘い、不屈の六甲精神が苦しい時こそ人生の助けになっていくことを願う。

（50 期　藤枝　誠）

【それぞれのコロナ禍】

世界的に感染拡大している新型コロナウイルス感染症をテーマに、ロサンゼルス伯友会メンバーに、それぞれの立場での想い、情報、体験談を語っていただきました。

写真上段左より　宇都宮光（20 期）編集委員、松下治正（42 期）編集委員長、陳敏生（35 期）NASA ジェット推進研究所勤務、岡田健一（29 期）Uber ドライバー、小幡成雄（43 期）編集委員、森下秀明（42 期）IT 会社経営、藤野秀樹（15 期）エネルギー関連プラント輸出従事後に遮熱材輸出自営、牧野明久（41 期）塾講師、田名部武志（42 期）トヨタ自動車勤務、加藤学（62 期）TOYO TIRE 勤務

――田名部さんは７月にアメリカ駐在の任期終了で帰国されましたが、その際どの様な体験をしましたか？

田名部：帰国のための飛行機の便は、4 月頃から調べていましだが、ANA のロサンゼルス～成田間だけは毎日運行していて、もしかして日本政府の帰国支援じゃないかと思いました。結局、飼い犬と一緒にその便で帰ることにしました。正確に言うと、犬はケージに入れて荷物として預ける形ですが。

――空港の雰囲気はどんな感じでしたか？

田名部：アメリカの空港はガラガラでしたね。ロサンゼルス空港はいつもごった返しているのに、本当にガラガラもいいところでした。

ロサンゼルスの街中では、9 割～9 割５分マスクなどをしていました。空港にはフェイスシールドをしている人もいました。

コロナに対する反応には国民性が出ますよね。機内に入ると、中華系の人が全身真っ白な紙かビニールか、そういうごわごわっとした素材のつなぎの防護服を着ていました。パッと見て、日本人じゃないだろうなと思っていましたが、近くを通ったら中国語をしゃべっていましたので。その他にも中華系の人が、同じような白のつなぎの防護服を着て、カップルで乗っていました。機内食はちゃんと出ました。プラスチックで蓋をしてあったかな？うろ覚えですが。意外にもお酒も出ました。ビールを頼んだら、いつも通り蓋を開け、グラスに半分入れて持ってきてくれました。そこはこのご時世、自分で入れるから良いのに…と思いましたが（笑）。

――空港では PCR 検査をするのですよね？

田名部：そう、成田に着いたらすぐに PCR 検査を受けました。そのあとレンタカーで移動して自宅で 2 週間こもっていました。公共交通機関を使ったらダメということで、当然国内線乗り継ぎもだめです。唯一レンタカーは OK と言う事でしたので、ミニバンを借りて、夜中に成田から愛知県まで仮眠取りながら走りました。車は愛知県のレンタカー屋さんに乗り捨てるのですが、そこから家までは、やはり公共交通機関に乗れないので、先に帰国していた妻にマイカーをレンタカー屋に置いてもらってそれに乗り換えて帰りました。

実はその前にもう１つ東京の予備校に通っている息子にアメリカからディプロマを持って帰って渡すと言うタスクがあったんです。成田からレンタカーで先ず東京の予備校の近くまで行って、そこで夜待ち合わせていた妻にディプロマを渡しました。その後、さっき言ったように、愛知まで運転して車を返却後、妻が東京に行く途中にレンタカー屋さんに置いていってくれたマイカーで帰宅しました。まるでミッションインポッシブルみたいですね（笑）。

――空港での PCR 検査はどんな風に行なわれていましたか？

田名部：検査は、飛行機を降りるといつもと違うところに順番に案内されて椅子に座って問診を受けて、防疫のための囲いの中に案内されて、鼻にグーッと検査の棒みたいなのを入れられました。あんなに深くまで突っ込まれたのは初めてです（笑）。そのあとは、「2 週間自宅待機をお願いします。公共交通機関の利用はダメです。ただし食糧の買い物とかは大丈夫です」と言われました。自主的な判断が求めら

れるのが、日本なのですね。

会社の同僚で独身者は、駐在から帰って、多少の蓄え（食料）はあったのか、持って帰ったのか…。近所の人が事情を知っていたので、差し入れとかを色々してくれたみたいです。

うちの場合は、妻と子供が予備校の関係で1か月前に先行帰国したのですが、実家のお母さんが近いんで、あらかじめ食料などを入れといてくれたので、帰ったら即こもるという感じでした。

まあ一応、食料の買い物はいいと言いながら、近所の目がね…。なんかあって「アイツのとこだろ」と言われるのも嫌なので、完璧に籠ろうと決めていました。近所で「感染者出た！」となると、「田名部さんのとことちゃうか」となる事は避けたかったので。

先行帰国の妻の自主隔離期間が過ぎて、買い出しに出掛けるのを始めたころに僕が帰国することになりました。ただ僕の帰国後のPCR検査で陰性が出るまでは、妻は息子のディプロの件があったので、自宅から一旦東京に行きホテルに滞在して、僕の陰性が判明してから改めて帰ってきたんです。とはいえ、僕と接触しているので、余りうろうろとは歩けないので、2週間ずーっと一緒にこもっていました。ある日、回覧板を持ってきた隣の奥さんが「田名部さんはきっちり隔離されているんですね、車が動いてないですもんね」と…。周りはちゃんと見てるんです（苦笑）。日本はお互いの目線を感じつつ、自主的にやるっていうのが良いのでしょうね。

――――岡田さんはウーバータクシーのドライバーをされているそうですが、現在はどんな状況ですか？

岡田：コロナ禍の中でドライバーの仕事をするというのは、まるで戦場に出ていくようなものなので、仕事はしてもいいんですが、私自身はちょっと控えて家の中でじっとしております。

――――未だウーバーの業務をされていた時に、町の変化や乗客の変化を感じましたか？

岡田：3月半ばにウーバーの運転をストップしました。ウーバーは密室で、1時間以上ドライブする事がよくあり、当時の客はほぼマスクをしていなかったからね。止める前はもう既に外出制限令が出ていたので、徐々に利用客が減り始めてきた感じがしました。空港も国際便の大幅減便が始まり、国内便もかなり空きが出てきたようなので、空港からの利用客も発令後激減しました。3月20日過ぎくらいから、交通量は普段の2割くらいに減った感じがしましたね。

――――今でも働いているウーバー仲間はいますか？

岡田：私の知っている人で続けている人はいませんね。ドライバーにも失業給付金や失業保険が出るので多くの人がやめたのだと思う。あるいは、ウーバーイーツやポストメートなどのフードデリバリーにシフトしたのかもしれません。しかしこちらの稼ぎはウーバータクシーに較べてかなり少ないですね。知り合いがウーバータクシーを利用したら、運転席と後ろのシートがビニールカーテンで仕切られた車が来たそうです。

――――今ウーバー自体、会社としてコロナ禍の影響をどんな形で受けてると思いますか？

岡田：客は当然激減しました。空港はガラガラ、ウーバータクシーの利用客もほぼありません。すべての学校が休校で、学生の利用はなく、会社もほぼリモートになっています。とにかく人の移動が無くなった。従って収益は最悪となっているはずです。ウーバーイーツがあるとはいえ、会社としての売り上げはたかが知れている感じがします。4月からドライバーにも失業給付金が出たので、多くのドライバーは休業しています。稼働しているドライバーはかなり減ったと思う。

――――どのような状態になったら、ウーバーの仕事に戻ろうと思いますか？

岡田：まず、有効なワクチンが開発され、確かな効果が確認され，感染者0が2～3ヶ月続いたら、また始めても良いかと思っています。

――――牧野さんは塾の講師をされているそうですが、やっぱりオンラインですか？

牧野：元々塾に来る生徒とオンラインの生徒を同時に教えて全世界に配信していたのですが、今はこのご時世だから、オンラインだけですね。前からやっていたのでスムーズに移れましたが、突然だったら難しかったでしょうね。アプリケーションはSkypeを使っているんだけど、音声と映像を分けていて、音声はSkype、映像は別に顔を見る必要がないから、ホワイトボードのサイトを使っています。授業はこちらがホワイトボードに書き込んで、生徒にもホワイトボードに書き込ませる形です。実際の教室のホワイトボードのイメージで、生徒は指名された時に書き込む形なので、問題はないですね。

――――カリフォルニアはまだロックダウンをしているそうですが＊（注1）、どういう状況ですか？

森下：屋内で密になるのがダメで、レストランでは中で食べられなくなりました。それで最初はベンチを外に出して店を営業していたのが、だんだん駐車場にテントを立てて、外に露店を作っている店が増えてきました。さらに、暑いサクラメントではテントの横も囲んで、クーラーを入れ、殆ど店内と変わらない店もあります。これを止めるような命令が出なければいいなあと思っています。

テント会社は、イベントが無くなり困っていたけれども、レストランがテントを長期間借りてくれるので、事業が復活しつつあるようです。

――――レストランが命令に従わなかったら、どんなペナルティがあるのですか？

森下：その場合は、警告や罰金が決められています。他の州では、実際に罰金が課されているようですが、カリフォルニアでは誰が回収して、誰がお金を管理するかがあやふやで、実際に罰金が徴収されることは少ないとニュースで言っていました。だから州政府の規制通りに営業していない店も、ぽつぽつあるようです。

陳：ジムは密になって、息も激しくするので危ない所の1つに入っていま

す。そういうところには、電気・水道を止めるというペナルティを科して、強制的に閉めさせている例を聞いています。

藤野：罰金については、みんなが集まるビーチは禁止してるんだけど、運動する分には良いんだよね、だからタオルを敷いてひなたぼっこの集まりはダメになったんです。ただサイクリングをしたり、走ったりは良いんだけど、少し前からマスク着用になったんですよ。

例えば Hermosa Beach とかビーチごとに市が違うんだけど、市のルールでマスクをしてないと罰金になりました。最初は 100 ドル、2 回目が 200 ドル、3 回目が 500 ドルの罰金だというんだけど、結局それも守られていない感じですね。罰金の制度を作ったのは最近で、それまでは注意だけで強制力が無かったんですよ。若い人たちは、自分たちが無症状で、なっても症状が軽いしね。ご存知の通りアメリカは自分勝手で自己主張ばっかりじゃない。だからなかなか言う事を聞かないんです。だからますます流行っちゃってるんですよね。

あと、飛行機の便も激減しているからか、日本からの郵便が殆どつかないんだよね。書留のようなトラッキングナンバーがついたものでも、酷い時は日本から 3 か月かかったりするんだな。うちの娘が、(日本から) 4 月初めに本やなんかを送ってくれたらしいけど、届いたのは 7 月に入ってからだった。日本の郵便局は、4 月の中頃から（アメリカ行きの）小包郵便を受け付けてないみたいですね。アメリカから（日本へ）は大体 2 週間位で着くみたいです。（日本で）1 日に出したモノと、15 日に出したモノが同じ日にアメリカに届くんですよ。日本の郵便局がある程度まとめて 1 ロットにしてから送ってるんだと思う。

森下：実は、貨物会社が今、儲かっているようです。DHL が 3 機飛行機を買ったとか、飛んでない旅客機を貨物機にかえて借りたりしているそうです。郵便が止まったおかげで、FEDEX や DHL の貨物量が増えているそうです。日本とアメリカ間しか調べてないですが、DHL は郵便の EMS*（注 2）の値段まで下げて、Whole Sale（卸売り）してるんですよ。

日本でその Whole Sale の値段で、アメリカまで代行配送してくれる会社が増えています。そこに頼むと郵便の EMS とほぼ同じ値段でアメリカまで送ってくれます。DHL を使うと日本からアメリカの私の家まで、2 日で着きます。

最近その転送業者を使うようにしたら、コロナ禍の中でも、日本から物が手に入るようになりました。

日本の通販の品物が欲しければ、まず、自分の日本の住所に送ってもらい、そこからアメリカまで転送してくれるんです。日本全国には今、転送してくれる会社がいくつかあります。

因みに、インタビューの後、全員が森下さんから代行配送会社の URL を転送して貰っていました（笑）。みなさんアメリカ生活が長く、ハグや握手が日常だったのが、今は人が近くに寄るとビクッとしたり、不快な感じがしたりするようになったそうです。

アメリカでは日本の 10 万円の給付金に当たる 1,200 ドルの給付があったなど、他にも面白いお話がたくさん出ましたが、全部書くと余りにも長くなるので、インタビューメンバーだけで楽しませていただくことにしました。

今回のインタビュー取材は、全て ZOOM で行いました。物理的な距離として対面取材可能な方も、そうでない方も関係なく行えたのは、オンラインというツールが市民権を得たお陰と言っても良いでしょう。

（注 1）インタビューを行った 8 月 8 日時点で。

（注 2）国際スピード郵便

弁護士法人 アーネスト法律事務所
〒 651－0055 神戸市中央区熊内橋通 7－1－13
神戸芸術センター 2803 号
弁護士 藤本久俊（31 期）
TEL（078）265−0810 FAX（078）977−8065

非鉄金属 ワイメタル株式会社
〒 675－1122 兵庫県加古郡稲美町中村 1216
代表取締役 横山幹夫（24 期）
横山央祐（49 期）
TEL（079）492−7314，FAX（079）492−6599

株式会社 マヤテック
〒 650－0024 神戸市中央区海岸通 5 商船三井ビル
代表取締役会長 五代友和（15 期）
TEL（078）391−3721，FAX（078）391−3927

宮野医療器株式会社
〒 650－8677 神戸市中央区楠町 5 丁目 4 番 8 号
取締役相談役 宮野 淳（19 期）
TEL（078）371−2121，FAX（078）371−2309，E-mail: a.miyano@miyano.co.jp
URL. http://miyano.co.jp/

先生を訪ねて

この欄では、六甲の先生を訪ねて、インタビューを通してその先生のご活躍をご紹介します。
今回は、コロナ禍での、学校の取り組みなどについて、教職員３名にお話いただきました。

ファイル No.	２００２３
氏　　名	石崎裕二（いしざき　ゆうじ）
出　　身	48 期　神戸大学教育学部卒 1995 年 11 月非常勤講師を経て 1996 年 4 月専任
担当教科	国語（今年度は中２古文と高３漢文） 訓育部長・アメリカンフットボール部顧問・立山キャンプ係

ファイル No.	２００２４
氏　　名	森本吉紀（もりもと よしき）
出　　身	1997 年（平成 9 年）奉職 経歴：広島学院（48 期相当）→慶應義塾大学物理学科修士課程卒業
担当教科	数学 生徒支援部長・中学バスケットボール部顧問

ファイル No.	２００２５
氏　　名	植松浩一（うえまつ こういち）
出　　身	39 期
担当教科	六甲学院事務長

３月２日から臨時休校になりました。その対処は？

植松：最初は課題の郵送も考えましたが、結局オンライン授業になりました。

森本：関東伯友会の方から『コロナの状況ではいかにオンライン授業などをきちんと進められるかどうかで学校は淘汰される時代になりますよ』とお聞きしていました。

植松：以前から教職員が主として使用していた、指導と学習を管理する web アプリ“Google Classroom”にある会議機能の使用を前提に各家庭のインターネット環境を数回調査しました。多くのご家庭では機器は共用で、ご子息が常に自由に使えるとは限らず、ご子息専用の機器を保有する場合も、大半が画面の小さなスマホだとわかりました。ですので、オンライン型のライブ配信授業ではなく、オンデマンド型で配信（教師が授業動画や PDF をアップロードし、生徒がアクセス可能な時間に視聴・ダウンロードする形式）をする方法が妥当と判断しました。

その後大きな画面の必要性からパソコンかタブレットの配布を決めました。

植松：費用面から一通りの機能を備えた Wi-Fi 版タブレットを選択しました。1,100 台の機器を統一することと、できるだけ早い納期を期待して、iPad をアップルの直販で購入にすることにしました。営業担当から提示された納期は１カ月以上先でしたが、現金一括払いを提示したところ 10 日後の納品予定に変わり、実際には１週間で届きました。たぶん冷やかしや合い見積もりを警戒されていたのでしょうね。

学校はどのように対応されたのでしょうか？アプリケーションの設定などはできていたのですか？

植松：できていません。教職員では手に負えませんし、業者に依頼しても時間がかかります。しかたなく保護者にしっかりペアレントコントロールをお願いすることにして、分散出勤している教職員が手分けして発送作業を行い 5 月 20 日頃には全員の手許に到着しました。

実際に使用するにあたっての案内などはどのようにされました？

植松：必要なアプリのインストールなど、できる範囲でマニュアルを作成・同封しました。タブレット未使用者の多い教職員向けに、10 台程度実機で確認しながら、ネットにあるものを参考にオリジナルのマニュアルを作成しました。

購入された iPad は市販品と同じですか？

植松：生徒に配布後でも学校が一斉制御できる機能があるなど一部違うようです。見かけや価格は同じです。

今回の iPad は貸与品ですか。

植松：生徒達の取扱い方などが違うだろうと考えて配布時には”貸与”という形でご案内しました。しかし今回は当初から新型コロナ禍の支援との考えで一括導入を決めましたので、後日保護者には『緊急時の支給品』とご案内しました。

石崎：当初貸与だったので生徒達は勝手にインストールするのを恐れていました。半分冗談で「学校で遠隔モニターしてるから」って言ったら、「そんなわけないやろ」っていう反応の子と、「そうなんや、気を付けよう」という子と二通りいましたね。予想はしていましたが、ペアレントコントロール逃れを考える生徒もいましたね。

森本：休校期間の長期化に備えて“Google Classroom”のアカウントを生徒に配ると同時に、先生方には配信準備を進めていただくよう連絡していました。

植松：到着と同時にオンライン配信が本格化しました。

配信するコンテンツ作成が急務になりましたね。

森本：出勤制限もありライブ配信は無理なので、オンデマンド用の動画をつくるしかありませんが、未経験の方が大半でしたので、“Google Classroom”内に配信内容を共有する部屋を作って、経験のある先生が実例をアップし、それを共有する形で徐々に広めて行きました。若い先生が中心に頑張られ、殊に59期の高橋先生と64期中村優先生はシステムエンジニアの経歴をお持ちで心強かったです。六甲の先生は好奇心とか学習意欲が高いので、どんどんレベルアップされていきました。

動画ならではの問題はありませんか？

森本：「顔を出すと悪戯等で思わぬところで拡散するんじゃないか」と若い先生方が敏感でした。年配の先生方はそういう世界に詳しくないので気にされない方が多かったです。男の先生であれ女の先生であれ、声がそのまま流れるのに抵抗を感じる方もおられました。コンピューターに詳しい先生は画面にキャラクターをのせて、キャラクターがアニメ風の声で喋るような授業にするとか、声を早送りして声質を変えるとか、いろんな工夫をしました。

授業を動画で配信することでご苦労された事は何ですか？

森本：在宅勤務が多くなり自宅で動画を作る機会が増えました。子供の声とか車の音などの環境音が入るので、昼間は録音できないんです。夜中12時を過ぎて、みんなが寝静まってから作ることになります。目の前に生徒がいるとテンション上がってノリノリで説明がすらすらと出てくるんですけど、パソコンの画面とカメラに向かって夜中に説明を始めても全然テンション上がらないんです。カメラを前に、パワーポイントをいじりながら説明をした録画を観ると、なんて自分の説明は下手なんだろうと。何度も撮り直しをしました。無理やりハイテンションでやっていると、家族からは「あんた何してるの」みたいな感じにもなりました。

ある先生に「10分の動画作るのに20時間かかるよ」と言われて、作り始める前は「何を言ってんだろう」と思いましたが、実際自分が作り始めたら「ホンマや」と感じ、フラフラになるような状態になりました。

動画作りは2つのタイプに分かれます。ひとつはニュースの原稿のようにしゃべる内容を全部書き出して、台詞を絶対噛まないような感じで作り上げるタイプの先生と、もうひとつは失敗を気にせずある程度時間を決めて、少々荒くても動画を見るのは生徒なんだから、許してくれると割り切って毎週4本5本作って送ってこられる先生です。私の場合、動画を流すだけだと一方通行ですごく不安になるんです。普通だったらノートを点検してわかってることを確認できるんですが、それができないので、私の場合はノートの写真を送らせて写真を全部チェックしてコメントを書いて送り返すという作業をしました。週4回の授業で毎回宿題を出すと週4回、何十人もの生徒からノートが送り返されてきます。動画を作る作業と写真を点検してコメント書いて送り返す作業が何週間も続くというのが辛くて大変でした。「普通の授業の方がなんぼか楽やなあ」というのが、私に限らずいろんな先生の正直な感想です。

外部からの手助けや参考にされた資料等はありますか？

森本：特になく、助け合いが中心になって六甲の中で完結していたと思います。ただ、他校のことは気にしていました。栄光卒業の先生から情報を集めたりとか、他校のホームページをよく見てました。特に姉妹校のホームページだけではなく、近隣の私学のホームページは全部チェックしていました。遅れを取ったらまずいぞというのがありましたので。

オンライン授業のやり方などは前例がなかったのではありませんか？

森本：ですので、やり方は先生によって様々です。カメラを黒板の前において普通に授業をしてそれを撮るというやり方、パワーポイントなどのソフトを使って数式や解説を表示するパワポ型授業のやり方、穴埋めプリントと解説プリントをPDF化して、これを見て自分で勉強するやり方、等々。試行錯誤の結果、先生のやりやすいやり方に落ち着いてゆきました。

一番苦労されたのは多分国語の先生ではないかと。長い文章を載せると字が小さくなるからです。iPad配布前はスマホでその小さい文字を読まなきゃいけないからどうやって授業しようかと皆さん苦労されてました。iPadが配られてからは学校にある電子黒板を使って少しはやりやすくはなったみたいです。

石崎：高三の漢文については復習の内容をPDF化したのを見て自習してもらうようにしました。中学2年生の古文は宿題と授業を写した動画です。月水金と火木土に分けての登校だった6月初旬の2週間は、月曜日も火曜日も同じ授業を2回しました。火曜日登校の生徒達は、月曜日にタブレットを観てますから『もうわかってます、わかってます』っていう雰囲気はプンプンしてましたから、面白かったですよ。

森本：意慾を持って動画を観た生徒はちゃんと成績も伸びてました。動画の授業がうまくハマる生徒となかなかこなしきれなかった生徒とに二極分化しました。オンラインになじめない生徒を憂慮してたので、再開が近づいてきたら『できてなくても気にせず来いよ』みたいなメッセージは発信していました。勉強は二の次でもいいからまず学校へきて関係性を取り戻そうよというのが6月最初からの教職員の共有認識でした。

石崎：6月頃は授業を受けに来るだけでした。

iPadの購入から発送までの作業からマニュアル制作やコンテンツの作成まで含めて全て教職員の手作りだったんですね。勉学以外の学校行事等はどうされましたか？

石崎：4月の入学式のあと昔は入校訓練といっていた「オリエンテーション」も午前中の話だけにして、掃除や実習は一切なく、翌日からの登校もありませんでした。登校が始まってからも、便番、中間体操はありません。体育祭、バザー、海のキャンプも立山行きもなくなりました。インド募金は6月と7月の2回行なっています。今年はニューヨーク研修も中止でした。もし行っていたら帰国できない状況になっていました。休止していた掃除は、机を動かさない掃き掃除から始めました。衛生管理上難しい雑巾がけは8月現在でもしていません。中1が短パン一丁で素手で亀の子たわしの便番を、初めて経験するときにどんな様子になるのか楽しみでもあり怖くもあります。

上級生と下級生の交流ができませんね。

石崎：便番と雑巾がけをしていないだけで訓育生が下級生の掃除監督していますが、きめ細かい指導はありません。だから今の訓育生たちへは普段以上に訓育生としての心みたいなことを考えて欲しいと指導しています。

もうひとつ上下のつながりでいうとクラブ活動はどういう情況ですか？

石崎：6月半ばから顧問が必ず付き添い、消毒などの対策にも気をつけながら運動部も文化部も通常通りやってます。

OBの勝手な思い込みかもしれませんが、六甲らしいことができていないのではありませんか？

石崎：実は電車の中でうるさいとか、道を譲らない、ぶつかっても謝らない、マスクをしていないなどの苦情を沢山いただいています。こういう時期だからこそ目の前のことに想像力を働かせた“Man for Others”の心遣いをしてほしいと呼びかけています。

本当に学校が勉強だけをする場所になっていますね。

石崎：校長先生はその辺りをすごく気にされていますね。ホームルームは朝と帰る前の1日2回やっていますが、最初のうちは健康チェックの意味合いがすごく強い点呼でした。

学校へ来たら最初どこかで手の消毒をしているのですか？

石崎：東西の広場の手洗い場には石鹸液を置いてますし、コロナ後はお手洗いに石鹸を置くようになってます。各学年にもアルコールの消毒のスプレーを置いています。授業が終わった後はエアコンや電気のスイッチ、ドアノブなど公共のところの消毒を先生方にお願いしています。

今後の学校行事はどうなるのでしょう？

石崎：宿泊行事の、スキーとか研修旅行が3学期にあるんですが、コロナの状況によっては行かせないっていう保護者の方がおられるかもしれませんね。この状況だったら参加するしないの選択を認めざるを得ないんじゃないかなと思いますね。

そういう選択肢がある方が一律に止めるより良いかもしれませんね。

石崎：次の大きい問題は強歩会です。最近の強歩会は11月下旬に武庫川でやっています。5学年一斉にまとまって走ることができるかどうか。半分や3分の1に分けても、生徒が集団で走ってるのを世間の人達がどう受け止めるのかを慎重に判断しないといけません。学校の中をグルグル走るわけにもいかないですし。

（取材後、競歩会の中止が決定されました）

今は生徒全員がiPadを持っている環境です。将来はどんな風になるとお考えですか？

植松：新入生への配布も含めて全く未定です。今回の配布はコロナ禍での緊急支援で、今後は授業への利用も含めて検討中です。クラブ関係での利用とか学校学習や課外活動に即した形での導入もあるでしょう。機械に慣れると単なる配信だけではなく、違った用途のアイディアが出てくるように思われます。そこからスタートというところでしょうかね。

学校内のWi-Fi環境はどうなっていますか？

植松：1台で数人が利用できる程度のWi-Fiルーター数台を、必要に応じて使い回ししているのが現状です。将来は設置する方向で検討しています。

石崎：iPadを学校に持ってこさせることを前提にしたルールとか、環境づくりが次の課題で、スマホ持ち込みを禁止していた六甲には一番縁遠かったものがすごく身近なところにきましたけど、これもチャンスと思って前向きにやろうと思います。

教職員のみなさま、ご協力有り難うございました。
学校現場へのタブレット端末導入問題は、ニュースネタとして多く取りあげられていましたが、現場の苦労を少しでもお伝えできていれば幸いです。私たちもオンライン会議やリモートワークで色々と苦労しているので、教職員のみなさんのご苦労はすごく共感できると思います。

○

同好会だより

俳句同好会からの報告

設立より毎月開催していた「伯母野山句会」ではありますが、今年はさすがに新型コロナウイルスの影響により、会場を確保する事が出来ず、4月・5月は止むなく休会と致しました。6月より芦屋市商工会館で開催しております。8月より六甲学院生徒研修所は使えるようになったのですが、ソーシャルディスタンスの関係で、机の移動の禁止等制限があり、句会開催には不便なため、現在も商工会館のお世話になっております。

俳句は「座の文学」とも呼ばれ、本来対面して句会を開くべきものですが、コロナ禍にあって、リモートや郵便での開催を工夫してやっている会もあります。俳句は鉛筆1本、紙1枚あれば家に居ながらにして出来る活動です。

コロナ禍の今こそ、俳句を始めてみませんか。お問い合せは幹事の32期近藤迄お願い致します。

電　話　090-3658-7072
メール　kondou@mxt.mesh.ne.jp

WHAT'S UP AT OBANO-YAMA

この欄では、母校六甲学院の近況を伯友会員にお知らせ致します。六甲生の現在の姿を垣間見る事が出来るかと思います。

生徒へのインタビュー

下川奨太（しもかわ しょうた）
78 期　ラグビー部
2019 年度　中１指導員
2020 年度　体育祭委員長

様々なイベントが中止・延期となり、生徒たちが一丸となって行う毎年恒例の体育祭も中止になりました。今年開催されるはずだった体育祭にも、役員たちが準備を進めていました。これまでの成果を発表する場を失ったことへの想いなどを、体育祭委員長の下川奨太君（78 期）に伺いました。

――――体育祭委員長はどうやって決まるのですか？

１月中旬に立候補して、１月 31 日の選挙で決まりました。対抗馬もある中、所信表明を学校の掲示板に貼って、同級生みんなの前で演説をして、高３で選挙するんです。自分としては、去年の体育祭あたりから少しずつ意識し始めて、１月初旬に立候補を決意しました。

――――体育祭に向けての準備が始まりました。まずやった事は？

テーマは、「覇（はたがしら）」にしました。休校中も、それぞれのパートで、学校で会議ができない分、LINE を使って会議を行うなど工夫して、準備を進めていきました。シンボルの幕も、登校できた一週間くらいで作りました。その間ずっと、いつ練習できるようになるんだろうかとか、いまやっている活動が実現するんだろうかという不安はありましたね。なかなかしんどかったですけど、安達先生や両親にもポジティブに行こうと励まされながら、体育祭はあると信じて毎日とりくんでいました。

――――それが中止となりました。どんな気持ちでしたか？

２月にテーマを決めてすぐの３月から休校になったんですが、４月の登校日に高３が講堂に集められて、古泉校長から今年の体育祭は中止になったとの説明を受けました。この日の１週間前までは、総行進はできると先生方にも言われていたので、聞いた時にはびっくりとくやしさで「まじかっ」ていう気持ちが 10 分間くらい続きました。何人かは泣いていたけど、僕は涙をこらえました。

その場で、「意見がある人は言ってください」と校長先生に言われたので、何人かが発言した後、最後に僕が体育祭委員長として「体育祭はなくなったけど、日常生活を通じて 78 期らしさを出していこう」と意見を述べました。

委員会の中には、「体育祭がなくなって困るのは、自分たちに続く高２かもしれない。できなかった分、下級生と面接をして、高３から高２にバトンを渡していきたい」という意見があって、実際に面談をして後を託しました。

――――それはつらい経験でしたね。どうやって気持ちを切り替えていきましたか？

その後に、同級生や先生方（安達先生、雀部先生、石川先生）にも声をかけていただきましたし、OB の先輩方にも SNS を通じて励ましていただきました。また、万が一中止になったら、体育祭委員長だからこそ率先して気持ちを切り替えていこうという気持ちでいたので、意地でも次に目標となるものを作っていこうと思って気持ちを切り替えていきました。

今は、委員長をしていた中間体操もなくなってしまったので、学校生活は、登校して、授業を受けるだけになってしまってますけど、学校生活を普通に送れていることが、うれしいです。

――――ところで休校期間中はどのように過ごしていましたか？

休校になると聞いて、期末もなくなるし、正直言って、一瞬めちゃくちゃうれしかったです。それでも、「体育祭期間は勉強できなくなるかもしれない」と思っていたので、気持ちを切り替えて勉強してましたね。中止を知らされた最初の一週間はへこんでいたんですけど、高３ですし、もともと危機感ある時期ですから、６時に起きて、しっかり計画を立てて勉強するようにしていました。

“Google Classroom”でのオンライン授業は、課題の提出や質問もできるし、ビデオで何回も見返せるのでいい面もありますが、周りがどれくらい勉強しているのかわからないので、気持ちを保つのが難しかったです。

息抜きに、たまに仲間同士でサイクリングしたり、友達と会話をしたりして、気分を盛り立てていました。

――――下川君にとって（体育祭があればもちろん体育祭だったんだろうけど）六甲の６年間で一番思い出深いことって何ですか？

僕にとっては、文化祭ですね。78 期がはじめて主導する学校行事で、みんなそれぞれが役員ポロシャツを着て、下級生を指導していくというのは、とても楽しかったです。

――――体育祭委員長の大役を務めるはずだった下川君にとって「78 期の体育祭」とは何だったんだろう？

今年の体育祭は、「覇」（はたがしら）というテーマのもと、自分達が主催してやるはずでした。中止が決まってから、全校生を前に体育祭について話す機会を作ったのですが、そこで「この体育祭のテーマ『覇（はたがしら）』には、覇者とか制覇とか戦いに関する意味の他に、覇気という意味があって、中一だろうが中二だろうが自分たちが六甲を引っ張っていくという気持ちを持ってほしい、体育祭のテーマだけど体育祭にとどまらずに、日頃の学校生活の中でそれを実現していってほしい」という話をしました。

クラブOB会だより

体操部OB会報告

開催日　2019年9月7日（土）17：30〜19：30
場　所　「天安閣」（中華料理）
参加者　角田嘉宏（13）、可児一孝（14）、千葉和成（16）、高橋庸一郎（18）、角田正治（21）、大谷秀二・木村勝彦（23）、小野誠・藤井政善（25）、中村奉修・山下（小林）泰三・浜田謙三郎（26）、濱田誠剛・濱野正啓（27）、山本芳邦（28）、浅香晃一（29）、中野隆雄（30）、山田恵喜（31）　（敬称略）

第7回体操部OB会は、JR神戸駅前の「天安閣」に18名が集い大いに盛り上がりました。前回と同じく、紹興酒の甕開きで始まりました。

先ず、この1年間に逝去された先輩の方々のご冥福を皆でお祈りして宴会が始まりましたが、毎年必ず参加された12期池永神父が体調優れず初めて欠席されたことが残念でした。今回は20期台が中心に大勢集まり、六甲時代の思い出話に花が咲き、初っ端から全力疾走の様相でした（笑）。また、六甲時代の話だけではなく、卒業後の先輩・後輩との出会い話など盛り沢山な話題で笑ったり驚いたり、楽しい時間を過ごしましたので、いくつかご紹介します。

千葉氏が建築設計の仕事を始めた頃、三宮のお店の設計を担当したら、3期の入江氏（カスカード社長）に出会ったという奇遇な話。

木村氏と大谷氏が正・副キャプテンをした時代は部員が非常に多かったそうです。木村氏は日本航空JALに入社してから10期近藤氏（後のJAL社長）に遭い、命を受けJAL六甲会を作った。大谷氏は現在、外国人向けの日本語教育の仕事をされていますが、毎年「フリン先生を偲ぶ会」の幹事もされています。

角田正治氏（21期）は池永先輩に頼まれて、現在、クリスチャンセンター・バイブルハウス神戸の事務局長として活躍されています。

高橋氏は学生時代に中国語を勉強し、仕事でチベットやモンゴルにも行って活躍されましたが、当時、ご両親からは「そんな人の居ない所に行って何をするの？」（一同爆笑）と言われたそうです。

角田嘉宏氏（13期）は、工業所有権を研究し大学で教鞭もとられたそうですが、現在も国際特許の先駆者として活躍される傍ら縄文文化を研究され、「82歳にもなると、面白い事をするのが良い」とのこと。

26期の体操部キャプテンの山下（小林）氏と浜田謙三郎氏からは、「来年も是非参加したい」との力強いお言葉を頂きました。

面白いお話がまだまだ沢山ありましたが、書ききれませんので、これにて。

今年2020年は新型コロナウイルス蔓延の影響でOB会開催が叶いませんが、治療薬やワクチンが早く開発されOB会が再開できることを楽しみにしています。再び神戸に集う時まで、皆様、健康に留意されお元気に過ごされますようお祈り申し上げます。なお、これまで7年に亘り撮り溜めましたOB会写真など漸次掲載して参りますので、体操部ホームページを時々ご覧いただければ幸いです。

URL：https://sites.google.com/site/rokkotaisobu/
連絡先：rokkotaisobu@gmail.com
（第7回体操部OB会幹事：浅香晃一、写真撮影：山田恵喜）

バスケット部OB会報告

開催日　2019年10月26日（土）17：00〜
場　所　JR神戸駅山側　中華料理「天安閣」

11期の大野勝男先輩を筆頭に総勢35名ほどが集まり、古泉校長先生、岩下先生をお招きして盛大に行いました。料理もさることながら、生のカメツボに入った珍しい紹興酒をいただき、またビールの瓶には懐かしい学校の校舎の写真を貼り付けていただき会員一同感激いたしました。この同窓会は、毎年10月の第4土曜日と開催日が決まっていますので、

三輝工業株式会社
〒555－0043 大阪市西淀川区大野1丁目5－12
濱田誠剛（27期）
本社・工場　TEL(06)6475−5156(代)，FAX(06)6475−5406

俳句を軸とした文芸誌「沖ゆくらくだ」
季刊で発行中。1部700円
㈱学術出版印刷
〒554－0022 大阪市此花区春日出中2－14－9
代表取締役 近藤　健（32期）
TEL(06)6466−1588，FAX(06)6463−2522，E-mail: kondou@mxt.mesh.ne.ip

日程を合わせて、ご参加ください。「六甲バスケＯＢ会」のブログもありますので、一度ご覧ください

山岳部OB会、創部80周年総会を開催

開催日　2019 年 10 月 26 日～27 日

六甲学院山岳会（山岳部 OB 会）創部 80 周年行事を四部構成で盛大に執り行いました。

第一部：物故者追悼ミサ

カトリック六甲教会にて、25 名が参加。物故会員 66 名のみならず、武宮校長先生、シュトルテ先生（天狗さん）など、お世話になった方達すべてへの感謝と追悼の祈りを捧げました。12 期藤原さんが共同祈願で先唱されたように、山岳部員は「山や自然との触れ合いを通して、創造主の御業と力を知り、登山を通して苦しみと喜びを学ぶことができ」「ともに喜び、助け合う力を尽くすことの大切さを証された」。中村神父様（山岳部 15 期）はお話の中で、自らの体験を基に「山岳部は命がけのつながりがある」と指摘、故阪上先生の人柄を偲びつつ、「私たちの学びがこれからの人生を生きる力、道しるべとなるように」と祈られました。

六甲教会にて、追悼ミサ参加者

第二部：故阪上先生墓参（於：長峰墓地）

参加者 24 名。マイクロバスで長峰墓地に移動。墓前に中村神父様が祈りを捧げられた後、皆でお焼香をしました。

阪上先生の墓前で祈りを捧げる中村神父様

第三部：総会・懇親会

参加者 27 名。

六甲山上ある YMCA にて開催。8 期森川会長の挨拶、28 期中家さんの会計報告、13 期稲富さんの乾杯の発声でバーベキューを開始、あちこちで昔話に花が咲き談笑が絶えませんでした。満腹になったところで、一人一人が近況報告。焚火をおこし、部歌を皮切りに、行進曲や立山の歌などの大合唱が始まりました。日帰り組が帰途についた後、会場を宿泊棟の大広間に移し、二次会をスタート。すでに数名は沈没しているようでしたが、先輩諸兄より昔話を色々聞かせて頂き、楽しい時間を過ごさせて頂きました。日付が変わった頃にお開きとなりました。

BBQ 参加者記念写真

たき火を囲んで大合唱

第四部：ハイキング

主に、摩耶山を経て新神戸、ハーブ園へ。コーヒーや昼食にたっぷり時間をかけて、絶好の晴天を楽しみました。

布引の滝へのハイキング

【各種行事参加者】　延べ 31 名（敬称略）

森川　列（8）、中村芳男（9）、五十嵐恒夫（11）、藤原　泰（12）、稲富武二（13）、山名晴次郎・北村　豊・杉本静哉（16）、

南川和茂法律事務所（みなかわ）
〒 530－0047 大阪市北区西天満４丁目１番 15 号　西天満内藤ビル４階
弁護士　南川和茂（23 期）
TEL（06）6365－0400，FAX（06）6365－0455
E-mail: kaminakawa@nifty.com

株式会社　村上工務店
〒 652－0815 神戸市兵庫区三川口町２丁目４番８号
相　談　役　村上良隆（21 期）
代表取締役社長　村上豪英（48 期）
URL. www.murakami-gc.co.jp　E-mail: info@murakami-gc.co.jp

春木康秀・稲吉資史（21）、岩田修二（22）、嘉治井崇・前川弘幸・田中達吉・佐伯邦治（23）、佐伯健治・石原　存（24）、南川博茂（25）、小根田一郎・山田　昇（26）、中家一郎（28）、矢野恵司・山下誠三・野網　裕・鍛冶義和・宮本　篤（29）、村田真澄・清水真也（30）、竹田安広（33）、藤原浩司・佐藤俊介（34）

（34 期　佐藤俊介　記）

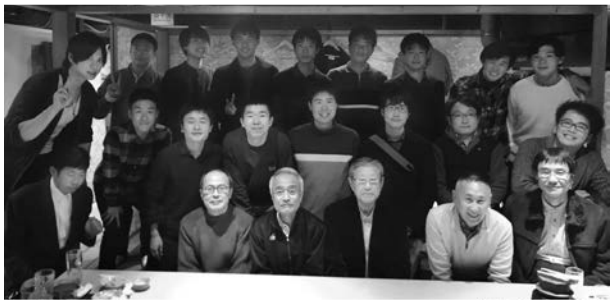
六甲学院山岳会ウェブサイト
http://rokkoh.web5.jp/open/top/

陸上競技部OB会報告

開催日　2020 年 1 月 2 日（木）　18 時～21 時
場　所　さんぱち家サンキタ通り店
参加者　田嶋（15）、山本（31）、長野・西本・古田・松本（42）、岩石（46）、白壁・浦川・千代鶴（63）、細澤（69）、中村・西脇・山崎（71）、山根（72）、今井・金高・久次（73）、稲葉・大池・小幡・玉・西谷・真木（75）、村上（陸上部顧問）　（敬称略）

陸上競技部 OB 会が、2020 年 1 月 2 日、さんぱち家サンキタ通り店にて開催され、15 期から 75 期までの総勢 25 名が集まりました。OB 会は幹事の乾杯の挨拶で始まり、その後参加者の自己紹介と近況報告が行われました。近況報告では、六甲生の活躍の場の広さが伺え、僕自身も先輩方のお話を聞きながら、将来のことを考える良い機会となりました。陸上競技部の顧問をしておられる村上先生からは、現役の学生達の戦績報告がありました。今年は 100 m、200 mで六甲記録が塗り替えられるなどの輝かしい成績を多く見受けられたように思います。最後は、幹事の一本締めで終わり、またの再会を誓いつつそれぞれの帰路に着きました。

OB 会の取りまとめは引き続き 75 期稲葉が行わせて頂きます。そのため、何かご連絡がある方は、稲葉の方までよろしくお願い致します。



【重要連絡】

陸上競技部 OB 会は、例年、新年に行わせて頂いております。しかし、OB 会のメンバーが固定されつつあり、なかなか新しい参加者が集まらない状況となっています。そこで、隔年ごとに、OB 会を年末に忘年会として開催することとしました。そのため、次回は忘年会として開催いたします。開催日時は 12 ／ 29（火）に行う予定です。詳細は OB 会が近づいたときにお伝えいたします。ご不明な点があれば、幹事の方までご連絡ください。また、連絡先の変更で OB 会の案内を送ることができない方が年々増えております。そこで、陸上部 OB の方で OB 会の案内が届いておられない方は、幹事の方までぜひともご連絡よろしくお願い致します。
連絡先：幹事　75 期　稲葉丈人：taketo963@gmail.com

サッカー部OB会報告

令和２年度 JJHAF 杯四校対抗は中止

令和２年度の JJHAF 杯四校対抗は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりました。

来年は改めて神戸開催で準備していきたいと考えておりますので、皆さまのご参加、ご協力をお願いいたします。
写真は渡邉正直さん（30 期）から送っていただいた、昨年度の九州開催のものです。

（42 期　松下治正　記）

井尻整形外科
JR 垂水駅北、レバンテ垂水１番館２階
院長 井尻慎一郎（32 期）
TEL（078）704−5055，FAX（078）704−5066，URL. http://ijiri.jp

高　端　歯　科
〒 657－0065 神戸市灘区宮山町３－３－29 六甲ヒルコート 102 号
高端泰伸（33 期）
TEL（078）871−6545

同期会だより

各期の同期会の報告をお待ちしております。その際、なるべく楽しい写真を添えていただければ幸いです。開催日及び場所を記載していただく以外は、特に字数制限はありません。また「伯友」は春と秋号２回発行しておりますが、「同期会だより」は秋号のみ掲載します。場合によっては開催日と掲載が１年以上隔たる場合も生じますが、ご了承ください。

「伯友」誌には、学年・開催日・場所・参加者・写真のみの掲載となります。ホームページの伯友会オフィシャルサイトには寄せられた報告の全文を随時掲載いたしております。

８期

開催日　2019 年 11 月 7 日 12 時開宴
場　所　ANA クラウンプラザホテル神戸
参加者　尾上芳郎、大西憲治、豊田昇、岡田二三夫、長森健、奥昭徳、豊田裕正、小倉裕、井上弘、鈴木英夫、竹川侑也、馬場信次（12 名）

16 期

（関西）
開催日　2019 年 10 月 26 日（土）
場　所　「須磨観光ハウス「花月」
参加者　相澤、金井、神谷、上村(ｶﾐﾑﾗ)、北村(史)、木藤、近藤、新海、杉野、芹田、田中(清)、田中(康)、谷、千葉、土居、中濱、速水、春名、樋口、平松、本條、前田(啓)、目賀田、屋代、安井、湯朝、吉岡、吉田(弘)

（関東）
開催日　2019 年 11 月 27 日（水）
場　所　和食処　北大路「八重洲茶寮」
参加者　今井、岡田、北村(史)、北村(豊)、古宇田、佐々木、澤田、柴田、土田、中谷、中濱、元川、山下、吉岡、渡邊

17 期

（関西）
開催日　2019 年 12 月 3 日
場　所　三ノ宮「鈴江」
参加者　浅井、井上(将)、岡田、小川、菅、鈴木(一)、瀬尾、反橋、高田、徳大寺、南谷、平林、福田、松井、村上、森(功)、森（建）（16 名）

足立優歯科・神戸デンタルドックセンター
〒 658－0072 神戸市東灘区岡本１－３－33
院長 足立　優（36 期）
TEL（078）411−0024，FAX（078）411−0056
URL. https://www.adachi-dental.jp E-mail: info@adachi-dental.jp

東淀川井高野郵便局
〒 533－0001 大阪市東淀川区井高野１－33－39
局長 三千敏弘（36 期）
TEL（06）6340−6681，FAX（06）6340−5974

（関東）
開催日　2019 年 12 月 19 日
場　所　ポールスター（丸の内）
参加者　浅徳大寺、河西、大崎、米村、上田、西澤、前田、田邊、江副、横田、及川、成宮、内田、久保田(14 名)

22 期

開催日　2019 年 9 月 23 日（秋分の日）
場　所　神戸ベイシェラトンホテル
参加者　秋山直英、有吉英二、伊藤真人、浦谷良美、北徹、近藤俊介、榊山良一、鈴木伸典、砂川良和、高田明、月原信夫、辻禮治、戸田豊、西崎雪夫、濱田敏夫、林千尋、松原秀夫、多田和郎（19 名）

32 期

開催日　2020 年 9 月 27 日（日）
場　所　三木よかわカントリークラブ
参加者　西原健二、賀来伸行、山田博、尾松　恵、白井一彦、渡辺利之、石井一弥、桜井　隆、古澤　真、堀江謙吾、秋山裕之、浦島一博、溝口良平、松浦一、垣内明男、野村史郎、近藤健、佐々木健輔、鶴丸琢美

34 期

同期会
開催日　2019 年 9 月 28 日（土）
場　所　新大阪ワシントンホテルプラザ
　　2 次会：あかまる屋新大阪南口店
参加者　来賓：埜藤先生、岩井先生
　　浅田、伊井、井下、石川、大加戸、小田口、川村雅、鍬方、小林正、近藤紳、斎藤彰、佐々木、佐藤、高田明、竹中、田尻、鶴田、徳尾野、中村俊、西口、野田、野村(口野)、林(和田)、長谷部、原田、藤岡、松浦、安田、安光、山村、吉村（萩原）、和田隆（32 名）

秋のゴルフコンペ
開催日　2019 年 9 月 29 日（日）
場　所　ゴルフ：宝塚 GC（旧コース）
参加者　伊井、大畠、斎藤彰、佐々木、鶴田、野田、原田、藤岡、松浦、山村方、山本慎、吉村（萩原）（12 名）

やまだ整形外科クリニック
〒 651－0065 神戸市中央区割塚通７丁目２－１コンフォート春日野２階
院長　山田　博（32 期）
TEL(078)262-6780，FAX(078)262-6786

有限会社
アークスコーベ
一級建築士 事務所
32 期
石丸信明
ARX KOBE
〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-2-23 アークスビル
Tel 06-6136-1070　Fax 06-6136-1071
ishimaru@arxkobe.com　http://www.arxkobe.com

35 期

「35 期　還暦記念同窓会ー感謝のミサと懇親会」

開催日　2019 年 11 月 16 日

場　所　ミサ：母校聖堂、懇親会：ホテル竹園

参加者　塚崎先生、市川先生、35 期約 90 名

綱溢し

37 期

開催日　２０２０年１月３日（金）

場　所　神戸ポートピアホテル

参加者　粟飯原、赤松、飯尾、井上（和重）、江原、大津（旧姓橋村）、大橋（一郎）、岡田、小澤、梯、加納、河村、車谷、河野、澤、沢田、塩谷、島、島田、関根、高橋、多木、田中（浩文）、谷口、田村（匡）、辻村、寺口、東郷、時見、中惠、中村、平井、福嶋、藤尾、藤谷、堀川、本田、村田、八尾、吉田（亮浩）、吉田（篤）飯塚先生

38 期

開催日　2020 年 1 月 4 日（土）

場　所　梅田スカイビル 36 階　スカイルームルーム

参加者　稲垣先生、石光先生

同期 53 名の他

神戸駅前法律事務所
〒 650－0027 神戸市中央区中町通２丁目２番 17 号　武田ビル５階
弁護士　佐藤功行（41 期）
TEL（078）381−7612，FAX（078）381−7591
E-mail: yoshixbb@gmail.com

iCRAFT
アイクラフト株式会社
地域に喜ばれる ITを届けよう
〒 650－0034
神戸市中央区京町 83 番地
三宮センチュリービル 13F
代表取締役
山本裕計（43期）
TEL（078）391-2900, FAX（078）391-2901, URL：https://www.icraft.jp

支部だより

伯友会会員で構成される地域・職業・職場など支部活動されている方々の記事を掲載致します。また、これから活動したい人が同志を募る場としてもご活用下さい。

第15回中部支部報告

開催日　2019年11月9日(土)
場　所　割烹「みどり」
ご来賓　濱田誠剛伯友会副会長（27)、山口明彦伯友会関東支部（33)、樋口隆之伯友会会員委員長（39)（当時）
参加者　赤松　宏（12)、箕浦輝幸（19)、浦川龍男（21)、松崎善樹（32)、牧村行隆（33)、山森康雄（34)、大原弘隆（35)、井上晋平（56)
中部支部事務局　井上洋一支部長（33)、武藤淑郎（29)、南　正治（35)、船越真琴（36)、福田裕章（43)、黒田隆文（55)、阪田哲史（59)（敬称略）

当日は、伯友会から濱田副会長と山口明彦さん、樋口隆之さんにご参加いただき、総勢18名の方にご参集いただきました。

総会では、支部長の33期井上洋一さんのご挨拶に始まり、最年長の12期赤松宏さんに、詩吟のご披露と乾杯の音頭をお取りいただきました。

また、恒例により、ひとりずつ近況報告を行いましたが、12期から58期までの幅広い層の方の様々な話が聞け、少人数ならではのリラックスした雰囲気で、楽しい一時を過ごすことができました。

総会後は、カラオケボックスでの2次会に、12名の方の参加を得、自慢の喉を披露し合い、近年でも一番の盛り上がりとなりました。

中部地区は会員数約200名と少ないですが、総会参加率は、支部の中で最も高いと言われております。六甲卒業生間の人の繋がりが拡がることが、中部地区の企業の活性化に繋がっていくと考えます。今後も新たな参加者を募って、伯友会中部支部の輪を一層拡げていきたいと思いますので、多数のご参加をお待ちしております。　（35期　南　正治　記）

ロサンゼルス伯友会報告

開催日　2019年12月28日
場　所　Sea Empress Seafood Restaurant（ロサンゼルス郊外ガーデナ市）
参加者　写真左から　陳　敏生(35)、藤野秀樹(15)、森下秀明(42)、牧野明久（41)、茨城述雄（8)、岡田健一(29)（敬称略）

今回も忘年会を兼ねて懇親会を開催し、各会員が近況を話しました。事務局からいただいた伯友74，75号の配布もしました。

ZOOMオンライン懇親会

開催日　2020年6月6日
場　所　オンライン
参加者　藤野秀樹(15)、岡田健一(29)、陳敏生（35)、田名部武志、森下秀明（42)、加藤　学（62)（敬称略）

当分の間、カリフォルニアではレストランでの会食は難しいので、オンライン懇親会を行いました。オンラインなので、日本に戻られた加藤さんも朝早くから参加してくれました。途中接続の問題もありましたが、90分ほど歓談が出来ました。

カリフォルニアにはアメリカ生活が長い、経験豊かな卒業生がたくさんいます。留学、駐在、旅行等でアメリカに来られる際は、是非お知らせください。コロナが空ければ、レストランで、その前ならオンラインで歓迎会をさせていただき

森一産業株式会社
〒550－0012 大阪市西区立売堀5－4－40
代表取締役 渡辺喜弘（44期）
TEL(06)6541−2271，FAX(06)6541−2302

森本謙税理士事務所
〒657－0051 神戸市灘区八幡町2丁目6－11　サン六甲201
税理士　森本　謙（49期）
TEL(078)767−1601，FAX(078)767−1602
E-mail: k-morimoto@kcc.zaq.ne.jp

ます。よろしくお願いいたします。

（42 期　森下秀明　記）

森下連絡先：morishita@mmsystems.com

デュッセルドルフ伯友会報告

開催日　2020 年 8 月 25 日

参加者　山田（46 期）、田崎（51 期）、武内（64 期）（敬称略）

ドイツ・デュッセルドルフで COVID-19 の状況を気にしながらではありますが、8 月 25 日に 46 期山田さん、64 期武内さんと 3 名でデュッセルドルフ伯友会懇親会を開催しましたので、ご報告いたします。（40 期川合さんは残念ながらご欠席でした。）

異国の地で集まれる六甲の縁の不思議さとありがたさを感じつつ、結局は便番の話で盛り上がりが最高潮となる「六甲あるある」で六甲生魂が揺さぶられたところでお開きとなりました。ソーシャルディスタンスは守りながら、心の距離は一気に縮まりました。六甲 OB はドイツでも頑張ってます！

定期的に懇親会を開催していきますので、デュッセルドルフや近郊におられる六甲 OB の方をご存じでしたらご連絡・ご紹介いただけると幸いです。

開催日　2020 年 9 月 15 日

参加者　山田（46 期）、田崎（51 期）、栗下（62 期）（敬称略）

先日の開催報告を伯友会 HP に掲載いただいたところ、それを見た 62 期栗下さんから連絡をいただき、9 月 15 日に 46 期山田さんも含めた 3 名で歓迎会を開催しました。

（第二波も考慮に入れ、今回はマスクバージョンで撮影。トルコ料理のお店です）

現在当地で 5 名となりました。出張等も始まり、なかなか全員揃わないものの、新しい方が来られる場合は全員参加目指しての歓迎会を行いますので、ご連絡をよろしくお願いします。

（51 期　田崎朋広　記）

田崎連絡先：tomot1975@gmail.com

出版案内・本紹介

この欄では、会員や恩師の中で出版された方の本の案内をしたり、お奨め本の紹介や書評などの記事を掲載致します。
お気軽にご投稿下さい。自薦他薦を問いません。

『アブラハムと神さまと星空と』創世記＜上＞
～焚き火を囲んで聴く神の物語・説教篇１～

著　者　大頭眞一（36 期）

出版社　ヨベル

価　格　1,100 円+税

帯に記載されている内容

「しぶとく、諦めず、棄てない」神がずっと私を追ってくる。

毎週の講壇から実際に語られた礼拝説教。話され、聴き届けられたことばの持つリズムと生命感をそのままに書き起こすことで「聴く」説教集が出来上がった。「モーセ五書」講解に挑んだ著者の全８巻に亘る刊行が創世記＜上＞からスタート！

○

『〈嘘〉の政治史 - 生真面目な社会の不真面目な政治』

著　者　五百旗頭 薫（49 期）

出版社　中央公論新社

価　格　1,650 円（税込）

著者は日本の歴史学者・政治学者であり、東京大学大学院法学政治学研究科教授。専門は日本政治外交であり、過去に多数の著書を出されております。そんな著者の最新作のテーマが、「嘘」。

米国トランプ政権誕生やそれに伴うフェイクニュースの横行に象徴される時代の中、著者はイスラエルの歴史家ユヴァル・ノア・ハラリが『サピエンス全史』で書いた内容を引用して人類が作った虚構（フィクション）について言及し、「横着な嘘」から「戦略的なウソ」まで、嘘そのものではなく、「嘘がどう発現するか、それにどう対処するか」を中心に

議論した内容です。

途中、大正デモクラシーでの犬養毅と安達謙蔵を中心とした転換期における近代政治史、更には地域社会・集落、最後は昆虫化日本まで実に幅広い分野を行ったり来たりする内容であり（元となる論文・寄稿文に基づく構成と理解しております）、中には私が最近は読まなくなった分野もあったので骨が折れて時間掛かりましたが、純粋に「知の探求」として楽しむことが出来ました。

本著を読んだタイミングが非常事態宣言が出されていた頃でしたが、現代社会においても政府のコロナ対応に関してメディアでは批判が溢れております。コロナの前に出されたこちらの本にあった以下の記述に、考えさせられました。

「政府はしばしば人々に献身を求める。その時には、何らかの号令をかけるのが普通である。その号令に嘘を見出すと、我々はすぐに文句を言う。だがもし号令に嘘が含まれていなければ、どうだろうか。政府が人々を信頼し真実を打ち明けているか、傍若無人にも酷使の対象としてのみ捉えているか、どちらかであろう。なかなかスリリングな二者択一ではないか。」

六甲 OB の中では伯友会会長を務められた五百旗頭真氏（19 期）をはじめとした五百旗頭姓の多数の大先輩がいらっしゃいますが、薫氏（49 期）や同志社大学准教授である五百旗頭真吾氏（51 期）は我々 52 期とも年齢が近く、親しみを持てる存在です。そして、3 年前に初めてお会いする機会があり、それ以降伯友会活動を通じて、様々な機会でご相談に乗って頂いている後輩想いの優しい存在でもあります。（実際に、4 人の妹さんを持つ優しいお兄さんとお聞きしております）

【目次】

1　“嘘”の起源―生真面目な社会（職分から政党への 500 年）
2　レトリックの効用―“嘘”の明治史（福地櫻痴の挑戦；循環の観念；五／七／五で嘘を切る）
3　野党　存続の条件（複数政党政治を支える嘘）
4　地方統治の作法（人類を鼓舞してきたもの；受益と負担の均衡を求めて―近現代日本の地域社会）
補章　100 年後の日本―昆虫化日本　越冬始末

【五百旗頭　薫氏】

1974 年兵庫県生まれ。東京大学法学部卒業。同大学法学部助手、東京都立大学法学部助教授などを経て、現在、東京大学法学部教授。日本政治外交史専攻。著書に『大隈重信と政党政治 ―複数政党制の起源 明治 14 年 - 大正 3 年』『条約改正史――法権回復への展望とナショナリズム』など。

（Amazon の著者紹介欄より抜粋）

（52 期　水原浩志　記）

『受動喫煙からの解放』

著　者　藤原唯人（50 期）等
出版社　プチ・レトル
価　格　1,650 円（税込）

2020 年 4 月 1 日は受動喫煙からの解放記念日!?

2020 年 4 月 1 日に改正健康増進法が施行され、「多数の者が利用する施設」を原則禁煙にすることが法律で義務付けられました。これによって社会がどう変わるのかについて、弁護士である 50 期藤原唯人君が、ストラテジスト永江一石氏、大阪国際がんセンターの医師田淵貴大氏と論じた書籍です。

この法律改正を、この著書で知りました。タバコ起因での死亡者が 1.5 万人なのは驚きでした。改めてタバコが有害であることを再認識しました。

特に問題と感じた 3 点を述べます。1 点目は政治家との癒着。JT と政治家が癒着していることを知り、政治への不信感が増しました。財務省から JT への天下りも未だにあるようです。2 点目は情報リテラシーの重要性。JT は、TV 番組のスポンサーになっているが故に、タバコに批判的な番組は少ない傾向にあります。又、昨今はネットなどであらゆる情報があふれていて、「タバコと肺がん率は関係ない」と主張する著名人もいます。正しい情報を理解することが肝要と存じます。3 点目は貧困ビジネスの問題。生活保護を受けている人の 43%が喫煙者とのこと。ある意味、貧困層をマーケットの対象にしている側面があります。

このように、タバコは百害あって一利なしと思います。タバコゼロの社会は、現実的にハードルは高くないと思います。私自身、この著書の内容を周りに広げて、社会改革の一助になりたいと思います。

（50 期　渡邉勇人　記）

○

『成年後見の実務』
－フローチャートとポイント－

共同執筆　守屋　裕介（51 期）　他
編　集　リーガルサポート・成年後見センター
出版社　新日本法規出版
価　格　4,180 円（税込）

成年後見制度とは、「意思能力が低い状態がある程度の期間続いている場合に、本人の判断を他の者が補うこと

によって、本人を法律的に支援するための制度」というものであり、1999年の民法改正で従来の禁治産制度に代わって制定され、翌2000年4月1日に施行された制度です。この制度は、既に到来し始めている高齢化社会や認知症の増加などでニーズが増す制度でしょうが、私の中高時代のバスケ部先輩で司法書士である守屋さんが長年携わっておられ、この度、共同執筆陣の一人として実務書を出版されました。

私自身、法学部出身であり、仕事でも法律分野とは遠くない世界で生きてますが、あくまでもビジネス法務分野でのもの。成年後見については、全く不勉強な分野でした。

そのような素人目に考えてみても他人の財産処分に関与したりする訳なので、法律的にはトラブルを防止する為に相当堅牢な制度設計であり、それについてフローチャートや参考書式がふんだんに使われており、実にわかりやすい内容でした。

成年後見人は、対象者の人生の最期とも向き合う種類の仕事であり、日々の活動の大変さも容易に想像がつきました。

守屋さんには中高時代に指導を頂いただけではなく、52期が昨年度の伯友会幹事業務を開始するに際してOB会活動のキックオフミーティング時に相談した際に快く参加を頂きアドバイスを頂きました。よきパパであり、料理の腕も素晴らしい守屋さんは成年後見人としても信頼のおける存在だと思われます。

司法書士や弁護士で成年後見人をされる方、大変参考になりますので、是非お買い求め下さい。また、神戸や関西で成年後見人をお探しの方、是非、末尾連絡先の守屋司法書士事務所まで。

【目次】

[第1編]　申立手続
第1章　相談・方針の決定
第2章　法定後見制度の利用
第3章　後見等開始の審判の申立てと審理手続
[第2編]　法定後見
第1章　成年後見人の心構え
第2章　就任直後の対応
第3章　就任中の業務
第4章　後見等の終了
第5章　保佐・補助の業務
第6章　後見制度支援信託
[第3編]　法定後見監督
第1章　成年後見監督人の選任
第2章　成年後見監督人の具体的職務
第3章　成年後見監督の終了
第4章　保佐監督・補助監督

【守屋司法書士事務所】
〒658-0084 神戸市東灘区甲南町三丁目7番26号
フィオーレ西尾201号室
TEL：078-855-4951　FAX：078-855-4950
平日の9時～18時まで受付

（52期　水原浩志　記）

○

『がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方』

著　者　関本 剛（52期）
出版社　宝島社
価　格　1,720円（税込）

著者の関本剛医師（52期）は、緩和ケア医の第一人者であり、在宅ホスピス「関本クリニック」（神戸市灘区）の院長を務めている。医師として日々活躍していたところ、2019年秋に自身がステージ4のがんであるとの診断を受けた。

本書は、診断に至る経緯、家族や職場における葛藤、診断を受けてから仕事のあり方、今後への思いが綴られている。

本書で私がまず印象に残ったのは、関本氏のまぎれもないプロフェッショナルとしての姿だ。関本氏の活躍は仄聞していたが、実際の仕事の様子は率直に言ってイメージを持てていなかった。しかし、緩和ケア医としてこれまで患者に接してきたエピソードがむしろ淡々と語られ、患者の考えや姿勢に対し、冷静でありつつも温かな視線での分析がなされる。本書の描写を読むにつけ、ひとつひとつ関本氏が実際に患者に語りかけている様子が眼前に浮かぶようで、イメージとして確かに感じ取ることができた。そこに、プロフェッショナルとしての確かな姿を見いだせる。

そして、関本医師は、多くの看取り経験から自分の今後を考え、命ある限り医師としての仕事を全うされる決意を新たにされているわけであるが、実は関本氏はがんの診断を受けるよりも前から、自分の生き方というものに気付いておられ

神戸サン司法書士事務所
神戸サン相続遺言相談所
〒650－0031 神戸市中央区東町116番地の2　オールドブライト4階
司法書士　渡邊三郎（49期）
TEL（078）333－0088，FAX（078）333－0038
E-mail: watanabe@westkobe.com

株式会社　エステート溝口
〒657－0027 神戸市灘区永手町2丁目2番11号
溝口謙吾（49期）
TEL（078）822－7500, FAX（078）822－7488, E-mail: km@estate-mizoguchi.co.jp
URL. http://www.estate-mizoguchi.co.jp

たのではないかと思った。先だって関本氏にお会いしたとき、（事故や急病と異なり）がんは準備したり考えたりする時間を確保できるのが幸い、という旨のことを述べられていた。がんの診断がきっかけとなりその考えが言語化されたものの、日々の仕事の中から自らの生き方については既にしっかり考えておられたのではないかと思う。

関本氏とは六甲在学中から縁があり、また社会人になってからも、トロンボーン奏者である関本氏とはともにジャズ演奏を楽しむ仲であった。年齢も近く、家族構成も似ており、日々節制を心がけている関本氏ががんになったと知ったとき、何より人ごとであるとは思えなかった。果たして自分の身に同じことが起こったとき、自分は何を考え、どうやって現実を受け入れるのだろうか。

関本氏が病気のことを公表するのみならず、さらに本書を出版された勇気はいかほどのものであったか、想像に余りある。

普通に生きている限り、私たちは自分にあとどれだけの時間が確保されているのかは分からない。しかし、自分の時間に限りがあるかもしれないと仮定して生きることは可能である。本書は、大いなる存在に時間を区切られてしまった関本氏による渾身のメッセージである。時間は有限だという意識を持つ人にこそ、読んでほしいと思う。

（50 期　藤原 唯人 記）

○

『心理的安全性のつくりかた』

著　者　石井　遼介（61 期）
出版社　日本能率協会マネジメントセンター
価　格　1,980 円（税込）

社会人になった 20 年ほど前からビジネス書の類で色々と読み進めており、その中でも正解のない世界である組織論やリーダーシップ論、世の中のリーダーの半生記が好きでよく読んできました。

本書のテーマは、世界の GAFA の一角（他に、Amazon、Facebook、Apple）として我々の生活になくてはならない存在になった Google による調査により、チームにとっての重要性が一気に認知された「心理的安全性」。現代日本におけるあらゆる組織・チームといった現場において大注目の概念ですが、パッと聞いた際には、我々世代以上の昭和生まれからすれば、「職場は戦場。安全性とか、考えが緩いのでは？甘えでは？」という気持ちが（少しは）起こっても不思議ではない言葉でもあるのかな、と思います。

そうした気持ちを前提に読み進めましたが、本書では、その心理的安全性をまずは定義からしっかりと理解し、その上で、様々ある環境の中で、心理的安全性の高い職場を実現（が難しくても少しでも再現）できるように、そのアプローチについて日本の心理的安全性を研究してきた著者が解説して行きます。

日本における心理的安全性を、心理的安全性研究の世界的権威であるエドモンソン教授の定義を更に日本バージョンに捉え直し、「話しやすさ」「助け合い」「挑戦」「新奇歓迎」の４つの因子に分けて紹介し、その上で、心理的安全性が「ヌルい職場」ではなく、「健全な衝突」を生み出すための機能であることをしっかりと解説しておりました。

私自身が日頃感じていることを分かり易くまとめてくれた気持ちであり、職場やあらゆる組織でのリーダーシップを発揮頂く方に取って重宝しそうな内容でした。

本書の著者である石井さんとはまだお会いしたことはありませんが、自分より相当歳下なのだと思いますが、この歳で既に研究と実践を相当重ねていて只々凄いの一言です。

著者とやり取りところ、12 年前の 2008 年の関東伯友会の関東平成塾(現・令和塾)にて 32 期の御立尚資先輩に「ある聖人の祈り」としてお話し頂いたフレーズがずっと心に残っており、著書内でも使われているとのこと。是非手に取って読んで頂き、上記フレーズも探して六甲との縁を感じて頂けれと思います。

【目次】
第１章　チームの心理的安全性
第２章　リーダーシップとしての心理的柔軟性
第３章　行動分析でつくる心理的安全性
第４章　価値とルールでつくる心理的安全性
第５章　心理的安全性導入ガイド

【著者：石井遼介さん】
ZenTech チーフサイエンティスト。慶應義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所研究員。シンガポール国立大経営学修士。東京大学工学部卒。教育・研修領域、環境領域で、ひとの認知モデルを元にしたメソッドづくり・仕組みづくりを行う。官公庁、大企業、国際組織等とのプロジェクトを主導。環境領域で手がけたプロジェクトは、数百万人が参加し、CNN、BBC 等のメディアでとりあげられる。主著に認知行動療法 ACT についての入門書となる「悩みにふりまわされて しんどいあなたへ」がある。（Amazon の著者紹介欄より転載）

（52 期　水原浩志　記）

六甲国際ゴルフ倶楽部
〒 651－1263 神戸市北区山田町西下字押部道 15 番地
常務取締役 加藤　敏（62 期）
六甲国際ゴルフ倶楽部 TEL（078）581－2315　六甲国際パブリックコース TEL（078）583－0351
URL: http://rokkokokusai-kobe.jp/ E-mail: s.kato@rokkokokusai-kobe.jp

松川神経内科
〒 650－0004 神戸市中央区中山手通４－３－11
松川悦之（35 期）
URL. https://shouzenkai.or.jp
TEL（078）231－6018，FAX（078）241－9988
E-mail :shouzenkai@peace.ocn.ne.jp （松川神経科）
E-mail :sumamatsu@shouzenkai.or.jp （すま松の郷）

関連施設
介護老人保健施設
「すま松の郷」
〒654－0121 妙法寺樫原2－1
松川智之（38 期）
TEL（078）741－8585
FAX（078）741－8586

寄稿・紀行・聴こう

旅の思い出やふと思った事などを書き綴ってみませんか。今までおぼろげであった記憶や体験を再発見出来るかもしれません。原稿料は出ませんが、自分の文章が会誌に掲載される快感に浸って下さい。

75 歳でのキリマンジャロ挑戦

1．はじめに

中高時代に放送部（現物理部）に所属していた私にとっての山は、六甲山に登る程度だったし、大学時代も殆ど登ることはなく、NEC 就職後から始めた。NEC と関連会社社長時代そして定年後勤めた太成学院大学（大阪・堺市）教授時代に休みを利用して登り、国内では日本百名山･日本二百名山･各県最高峰踏破等の経験があり、北は北海道･利尻岳から南は石垣島･於茂登岳まで数々の山に挑戦してきた。しかし海外ではヒマラヤトレッキング（エベレスト街道･アンナプルナ)、カナダ･ウィスラーへのスキー登山、東南アジア最高峰のマレーシア･ボルネオ島のキナバル山・4,090m、台湾が嘗て日本の領土であった時の最高峰の玉山（新高山・3,952m）と 2 番目の雪山（次高山・3,886m）そして武陵四秀（品田山・3,524 m）に登った程度である。2018 年の山仲間の集まりで、

・海外の山に年 1 回は登ろう

・次はどうせ登るならアフリカ大陸最高峰のキリマンジャロに最も雨の少ない乾季に、メンバーが高齢なので高度調整ルートを、ついでにサファリも堪能する

ということが決まった。

仲間の中で最高齢だった私は初めは少し躊躇したが即決断して手を上げ、今般登ってきたので、以下報告する。

2．キリマンジャロ（以下キリマと略す）

アフリカ最高峰。東アフリカ中部のタンザニアの北東部にあり、独立峰としては世界で最も高く、西から東へシラ峰・3,962m、キボ峰・5,895m、マウエンジ峰・5,149m が連なる。最高峰のキボ峰山頂には直径 2.5km のカルデラと、その内側に直径 900m の火口があり、最高地点はこの大火口の南縁にある。主な登山ルートとして以下のものがある。

①マラングルート：通称コカコーラルート、唯一山小屋が完備され、水場がきれいで、トイレもほぼ整備され、最も難易度が低く人気は最も高い。

②マチャメルート（下りはムウェカルート）：通称ウィスキールート、景色が壮大でキャンプ地のロケーションも最高で、２番目に人気がある。

③レモショルート（下りはムウェカルート）：最も美しいルート。西の果てから登るため行程が長くて体力が必要、最初から最後まで植生が美しい。

④ロンガイルート：ケニア側（北側）からのルート：爆裂火山を北側から見ることが出来、美しい。

3．出来上がった計画概要

・**9/1**　伊丹発羽田･ドーハ経由

・**9/2**　キリマ空港着

・**9/3～9/9**　キリマ登山

レモショルート　6 泊 7 日（全テント泊)、テント以外は全て個人装備で日本より持参。ポーターに預ける荷物は 15kg/ 人以内

・**9/11～9/13**　サファリツアー　2 泊 3 日

・**9/14**　キリマ空港発ドーハ･成田経由 9/16 伊丹着

4．手を挙げた登山メンバー

男子 6 名･女子 2 名、平均年齢 67 歳。内 2 名は現役医師。山経験はそれなり 5 名、まあまあ 3 名。全員高山病･気温差（下は熱帯、頂上は −10～20℃）･血圧への影響･体力･伝染病等高齢による懸念大。

5．高齢登山への準備

・**しっかりした高度トレーニング**：メンバーの内 5 名は標高 0 m（富士市）からの富士登山。しかし、悪天候で 7 合目で中断。私ともう 1 名は剱岳（3 年振り）の北ア三大急登の 1 つ早月ルート（馬場島・750m～剱岳・2,999m、32 年振り）に挑戦。

・**高山病対策**：予防薬（ダイアモックス、ザルティア）の服用（←医師のお陰)。それに禁酒･禁煙、腹 8 分目、十分な水分摂取、ゆっくり歩く、意識的な深呼吸、完全な寒さ対策、昼寝厳禁等の一般常識の順守。

・**気温差対策**：持っている雪山装備フル稼働、義父形見のラクダの下着まで動員。手袋は 3 ウェイ。

・**乾燥対策**：喉が渇いてなくてもこまめな水分補給。

・紫外線対策：帽子、サングラス、日焼止･リップクリーム必携。

・**予防注射**：タンザニアは予防注射不要。しかし高齢で不安なため大阪検疫所に是非にと 3 回申し込んだがワクチン不足で断られ、止む無く断念。

・**VISA 取得**：入国には VISA 必須。現地空港で取得可だが大変な混雑という。偶々友人が名誉領事（鴻池組名誉会長）と昵懇なので大阪の領事館（鴻池組ビル内）を訪問･懇談。眼前のサインで VISA 受給。名誉領事の姿にリトアニア領事館でユダヤ人に大量発給した杉原千畝元領事を彷彿とさせられた。

6．行　　程

9 月 1 日（日）：20：20　伊丹発、羽田経由。

9 月 2 日（月）：14：00　ドーハ（カタール）経由キリマ空港着、空港からモシのリンドリンロッジへ。
ガイドから登山のオリエンテーションを受ける。

9 月 3 日（火）：Lemosho Gate・1,800m～Mti Mukbuba Camp・2,650m ＝ 6km

車で管理事務所に向かい、荷物の計量検査を受け、更に車で Lemosho Gate に向う。

14：00　同ゲート発。熱帯雨林の中を、日本とは違う高山植物を楽しむ

16：45　猿の沢山いる Mukbuba Camp に着。既にテントがはられており、運んで貰った荷物をポーターから受取って宿泊準備後、夕食。

９月４日（水）：～Shira2Camp・3,850m ＝ 16km

8：00　出発。樹林の中を植生の変化を楽しみながら歩く。樹林を脱すると視界が開け、広大なサバンナが広がり、その奥にキボ峰（キリマ本峰）の全容が姿を現す。

13：30　Shira1Camp・3,610m 着。途中車道（レスキュー用道路？）と交差。やがて日が沈み始め、キボ峰のアーベントロート（夕照）が美しい。

19：00　Shira2 Camp 着

広大なサバンナの向うにキボ峰のアーベントロート

樹林の中の花

ジャイアントセネシオ

９月５日（木）：～Barranco Camp・3,900m ＝ 8km

8：40　出発。ゆっくりゆっくり登る。やがてメンバーの１名の歩きが怪しくなり、ガイド･リーダーより下山の宣告。止む無くガイド１名がつき昨日の車道まで下り、本人は車でモシのロッジへ。残る７名で登山。キボ峰が徐々に大きくなり、氷河の白さが浮き立ってきれい。大きな岩がランドマークのようにそびえ立つラバタワー 4,642m まで一旦登って 700m 下る。勿体ない。下り道にはジャイアントセネシアの林があり、こんな高山なのに林なんて考えられず大感慨。

18：40　Barranco Camp 着。

９月６日（金）：～Karanga Capmp・4,050m ＝ 5km

9：30　出発。すぐに急壁を登る。一番の難所というがそんなに難しくない。

12：10　4,250m の峠に着き、今度は谷底まで下る。ジャイアントセネシオの群落が続き、タンザニアらしい世界が広がる。だらだら下って少し上る。

15：00　Karanga Capmp 着。途中のアップダウンの繰返しがきつかった。夕方麓のモシの街の夜景が望められた。夜になるとキボ峰の黒に氷河の白が浮び上り、コントラストが美しい。見上げれば満点の星。オリオンは分ったが、見えるはずのサザンクロス（南十字星）がどうしても見つけられなかった。あ～あ、残念無念。

９月７（土）：～Barafu Camp・4,700m ＝ 4km

一部のポーターが別ルートで下山し全員揃うのは最後というので、スタッフ全員で労いのお別れダンスが始まる。我々も参加するが、息が切れて途中でギブアップ。彼らは強い。

9：20　キャンプ場発。道をだらだら登る。いよいよ頂上に手が届き、明日登る道も辿れる。キャンプ場としては最高地点の Barafu Camp **13：20** 着。狭い場所に沢山のテントがひしめき合い、岩場の隙間を選んで張られている。空気が薄くてトイレに行くのも苦しい。着いてすぐのミーティングで、「**21：30** 頃軽い食事を取り **23：00** には出発」と告げられ、登頂の支度をして **15：30** 頃から仮眠。

９月８（日）：～頂上 Stella Point・5,756m ＝ 4km～Mweka Camp・3,090m ＝ 12km

前夜 **23：00** まばゆいばかりの星空の下、出発。先行するヘッドランプの光が延々と山頂に向かって続いている。見上げる程高い所にも明かりがあり、あそこまで行くのか～と気が遠くなる。最初は岩場で、暗闇の中、足下に気をつける必要があったが、間もなく砂地のジグザグ道。何も考えず一歩一歩進める。やがて朝焼けで辺りが明るくなってくる。

6：00　マウエンジ峰の向うからご来光。雲が多くあまりきれいでない。残念。歩けど歩けど変化のない登山道は精神的にきつい。空気が薄いためか 5,700m 付近まで来ると、急に足が上がらなくなり、しんどいを実感。這々の体で Stella Point・5,756m に到着。標識には CONGRATULATIONS とある。富士山を吉田コースで吉田口頂上・3,710m まで登ると富士山に登ったと言えるのと同様、ここまで登ると登頂証明が貰える。「やったー!!」正にその一言に尽きる。ここからアフリカ最高峰の頂上 Uhuru Peak まではまだ 1.5 時間位かかる。ここまでの上りにリュックを担いで貰ったり、身体を支えて貰ったりしてやっと登った者もおり、とても頂上まで行けそうにない。そんなことでここで The End を決断。暫く登頂の感慨に耽ってからの下り。下り専用のザラザラの急斜面の砂道、前のめりになって転げ落ちそうになる。やっとのことで下り切った所に、バラフキャンプで待機のポーターがジュースを持って迎えに来てくれた。その旨かったこと、やっと生きた心地がした。キャンプで小休止の後の長い

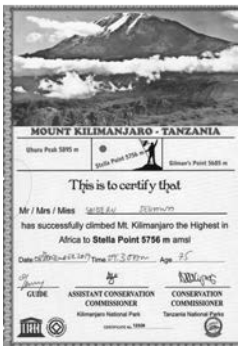
長い下り。途中にヘリポートが有り、所々に一輪車も置かれている。多分高山病等で歩けなくなった人のレスキュー用だろう。この日は風が強く、それで砂が舞い上がって目や喉が痒い。やがて亜熱帯林の中を歩くが、日が暮れて真っ暗。ライトを照らしても歩き辛い。

20：00　やっと Mweka Camp に到着。この日は本当にきつかった。

浮び上る氷河

マウエンジ峰の辺りからのご来光

ステラポイントでの万歳



登頂証明書

９月９（月）：～Mweka Gate・1,680m ＝ 10km

7：30　出発。少し下ると林道に出、歩き易くなる。

11：10　Mweka Gate 到着。長い長い辛くて楽しかった登山もこれで終わりかと思うと胸がジーンとくる。下山届後、車で **15：00** にリンドリンロッジ着。先に下山して我々の到着を首を長くして待っていた者が顔をくしゃくしゃにして出迎えてくれた。1 週間振りにシャワーを浴び、汗と埃と砂を流した後、久々の全員揃っての夕食。ビールの旨かったと、至福。

９月 10（火）～９月 13（金）

３つの国立公園でサファリ見学（詳細省略）

像の群れ

ライオン

バッファローとシマウマ

フラミンゴ

９月 14（土）

16：00　キリマ空港発（ささやかな打上げ会後　ドーハ、成田、羽田経由）

９月 16（月）

8：25　伊丹空港着

7．登山生活

・登山者８名＋スタッフ 30 名（ガイド　4 名＋コック　2 名＋ポーター　24 名）→計 38 名の大所帯。

・テント：登山者用４＋ダイニング用（8 人揃って座れる椅子･机も）１＋調理用１＋スタッフ用？

・登山用個人装備：登山には水３ℓ、防寒衣料、雨具、非常食、ヘッドランプ、カメラ、ストック等持参。それ以外はポーターに預ける。

・夜：洗顔用湯→ダイニングテントで夕食･血中酸素測定･ミーティング→個々のテントで就寝。

・朝：モーニングコール→洗顔用湯→茶（コーヒー or 紅茶）→預ける荷物提出→ダイニングテントで朝食･血中酸素測定→当日持参用湯配給。

・昼：先行･設定されてるダイニングテントで昼食。

・食事は朝･昼･夕３食共フォーク･ナイフのフルコース料理（スープ、肉料理、麺･パン等、フルーツ、茶）。

・水は近くの流れを汲み上げ、煮沸消毒して利用。

8．登山者像

・日本人とは全く出会わず東洋人は韓国の２パーティのみ、その他は全て欧米人。

・多分距離的に近いヨーロッパ人が殆ど？、それも 20～30 歳代ばかり。

・中にはスポーツブラや短パンスタイルのギャルもおり、ここがキリマかと目を疑うばかり。

・「じじばば」はどこにもおらず我々のみ。

・宿泊名簿を見る限り 75 歳は最高齢。

9．ポレポレ（スワヒリ語で Slow Slow の意）

・歩くペースはとにかくゆっくりゆっくり、高山でバテない（高山病予防の）歩き方の極意。

・対面･追越しの登山者も「ジャンボ（こんにちわ）」より「ポレポレ」と声を掛け合うことが多い。

10．スタッフ

・ガイド（4 名）：会話は全て英語。歩くペースを先導。高山病等に常に配慮。弱っている者に対して背中の荷物を分担してくれたり、リュックを肩代わりしてくれ、時に腕や肩を貸してくれる。とにかく頂上を踏ませるんだという気概が凄い。リーダーは常に明るいコミュニケーションに気を使い、時には厳しく下山指示まで行う。

・クッカー（2 名）：登山者のフルコース料理に加え、スタッフ全員分の調理や、洗い等も行う。

・ポーター（24 名）：1 人当り上限 20kg の荷物を預かる。他にテント･食事の材料（全行程･全員分）等に加え自分用荷

物も運ぶ（結局 40kg 位 / 人？）。入山時にポーター荷物の重量チェック有（←過酷な仕事ゆえ、身体を壊すことの防止）。テントの設営から撤収までも行う。テント撤収後、重い荷を頭に担いで登山者を追い越して目的地に先に到着し、テント設営して到着を待つ。水の無い宿泊地では近くの水場から水を運び上げ、場合によっては前のキャンプ地から運ぶ。

・スタッフは意外に薄給らしく、チップに頼っている。その配分は全てガイド･リーダーの権限。

11．気候

・キリマ山麓、サファリ共冷涼な気候。昼間は暑くても湿気が無いので日陰は快適。感覚的には日本の軽井沢の気候。半袖･半ズボンは不向き、総じて「ここが灼熱のアフリカか？」って感じ。

・山は昼間は移動しているのでそこそこだが、夜は寒い。標高 4,000m 付近ではシュラフ･シュラフカバーは勿論暖かい下着にダウン着用で寝る。標高 4,700m では身体の要所にカイロを張った。

・標高 5,700m 付近は酷寒。気温は－ 10°（体感温度はもっと低い、手袋を脱ぐと指先が紫色に）

12．レスキュー

体制がしっかりしており、その費用は入山料に含まれている。場所により車かヘリコプターで下山させる（そのための林道とヘリポートが完備）。そこまで運ぶための一輪車（運ぶ人は大変だが、運ばれる人の負担が少いという）が随所に配置。保険は海外旅行保険で良く、山岳保険は不要。

13．おわりに

75 歳でのキリマ登山、5,700m 超では、どこも痛くないのに今まで経験したことの無い苦しさを味わった。しかし高山病対策とはいえ、最も長く、美しいルートを歩き、キリマの様々な姿（アーベントロート、ご来光、白く浮かぶ氷河、4,000m 近くに広がるジャイアントセネシアの群落等々)が眺められ感無量。また登山人生最高地まで登れて感慨一入。1 人アウトだったが残る 7 人が全員無事登頂出来て至福。そして最初から最後まで尽くしてくれたスタッフの気概、全てが最高だった。それにしてもイギリスが築いた登山文化が徹底されていることを改めて実感した山行でもあった。それと今回の登山を支えてくれた全ての人に感謝･感謝。それもこれも健康あってのこと、毎日登っている旗振山登山のお陰でもある。

（20 期　瀬川　滋　記）

吉村先生ご退任記念の集い

開催日　2019 年 2 月 22 日

場　所　大阪梅田「新阪急ホテル」

吉村信夫先生を慕う有志が集い、「吉村先生ご退職記念の会」を開催いたしました。

吉村先生は北海道札幌市のご出身、上智大学をご卒業後、社会科の教員として六甲に 39 年間奉職され、本年 3 月をもって惜しまれつつご退任なさいました。カトリックの信者でもあり、在任中は教鞭を執る傍ら、「人生教育」の一環として在学生向けに「人生探検部」（通称、『人探（じんたん）』）、保護者向けには「保護者のためのカトリック研究会」などを主催されました。特に前者は、42 期から 79 期まで参加者数は 200 名以上にのぼり、先生の薫陶を受けた生徒は数多く、各界で活躍しています。また、人探参加者ならずとも、先生の授業開始時の「よし、はじめましょう。はいどーも、」や、「お～まえさ、」、「だ～まれだまれだまれだ～まれ～、」など、独特な節回しを今も覚えている OB 諸氏も多いのではないでしょうか。

外川先生との写真

当日は本会に先立ち、16 時半より、東京からお越しになった外川直見神父（14 期・第 4 代六甲校長）と山内保憲神父(49 期)の共同司式により、一部在校生も参加しての記念ミサが執り行われました。

ミサ後の集合写真

その後 18 時より、六甲校歌の斉唱とともに感謝会本会がスタート、外川元校長の挨拶に始まり、参加者代表として、太田匡彦氏（46 期）・五百旗頭薫氏（49 期）ともに東京大学大学院法学政治学研究科教授）、三浦太郎氏（66 期）（三井物産株式会社勤務）、佐伯壮一朗氏（73 期）（大阪大学大学院医学研究科所属）の四氏によるスピーチ、吉村先生が定期的に説教を受け持たれている神戸新生バプテスト教会（御影）の代表者や、保護者のためのカトリック研究会の方による挨拶、加えてカンボジアの復興にご活躍中の 44 期坂野一生氏から寄せられた温かいメッセージの朗読など、約 3 時間にわたる大変盛大な会となりました。

参加者との写真

会の最後には吉村先生の奥様からの一言、お二人への花束・記念品の贈呈、そして先生のご子息らも壇上に招いてご家族の写真撮影も行われ、先生にとっても思い出深い日になったことと存じます。なお、本会にご参加いただいた方々は約 100 名で、六甲 OB を中心に在職の先生方、生徒保護者、神戸新生バプテスト教会の皆様など多岐にわたりました。皆様にはこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

会場の様子

吉村先生は当面の間、関西を拠点にキリスト教・カトリックの布教活動に引き続き携わられるとのことで、六甲退職は残念ですが、今後より一層のご活躍を祈念しております。

「吉村先生ご退職記念の会」実行委員
42 期　片岡 功一・藤原 和隆、58 期　岡本 信秀、
66 期　荒木 建人

（58 期　岡本信秀　記）

映画「スパイの妻」を観て

31 期の黒沢清氏が「スパイの妻」でベネチア映画祭の監督賞である「銀獅子賞」を受賞された。10 月 16 日（金）より公開だったのでその日の席を予約しようとしたが、生憎その日は「鬼滅の刃」（以下「キメツ」）の公開日と重なっており、劇場のスクリーンの多くが「キメツ」で占められていて、「スパイの妻」の上映は真っ昼間の２回しかなかった。仕事を放っぽり出して観る訳にもいかず、翌週の月曜から始まるレイト上映で観る事にした。

「キメツ」の大ヒットに関しては敢えて私がここで語る事でもないが、コロナ禍等で危機に瀕していた映画・劇場関係者にとっては朗報なのではなかろうか。因みに私は ipad のプライムビデオで「キメツ」を３回観ようとトライしたが、最初の２分程でギブアップ。どうも相性が合わない。お断わりしておくが、私はアニメが嫌いな訳ではない。「エヴァンゲリオン」も初期の「トラゴンボール」も好きで、本も持っている。だから「キメツ」に関しては、やはり相性と言う他ない。「キメツ」の話はこの辺にしておいて、本題に入ろう。

私は黒沢監督の作品は今までに「トウキョウソナタ」や「クリーピー偽りの隣人」など何本か観ている。今回の作品は太平洋戦争前夜の神戸が舞台で８Ｋで撮影されているなど見所が多い。しかし、映画のトーンとしては「静」か「動」かというと圧倒的に「静」である。だから、アメリア映画の「動」を見慣れた人には物足りないかもしれない。また、今回８Ｋで撮るに当たって、NHK の技術スタッフが全面的に協力したこともあってか、この所黒沢監督の NHK 出演が多い。私はＮＨＫのラジオ番組で「私にとって初めて現代ではない過去を題材にした作品なので、いっその事モノクロで撮ろうかと思ったんだけど、８Ｋでモノクロではね」と語っておられた。で、その映像であるが、私の印象としてはモノクロの浮世絵に後世に鮮やかに色付けをして動画にしたような印象であった。

物語も主人公の夫婦が両方或いは片方は出ているシーンが八割を占め、「静」なのである。普通そんな映画は途中で退屈するのだけれど、これが 1 時間 55 分退屈しない。黒沢監督はホラーの名手である。しかし、彼の映画にゾンビや妖怪は登場しない。登場するのは人間である。黒沢監督にとって一番の恐怖の対象は人間なのである。

「スパイの妻」は国家の秘密を暴く事がテーマの映画である。戦争があった事はノンフィクションである。そして、この物語はフィクションである。しかし、似たような事は事実として存在したと思わす所に、この映画の恐さがある。そして不可思議な結末へと続く。

この映画、イタリアでは評価された。しかし、アカデミー賞は獲れないだろう。そんな映画があっていい。

（32 期　近藤健　記）

編集後記

■今号のインタビュー記事は全てリモートでお話しを伺いました。それに参加できたことは仕事を離れて十年以上になる小生には、コロナ禍で思うように仕事ができない方のご苦労も窺い知ることができた貴重な経験でした。

（20期 宇都宮）

■毎年お手伝いしているインタビュー取材も今年はコロナ禍特集の体裁になりました。毎年のことながら、いい学校で過ごさせてもらったなあとたくさんの出会いに感謝です。一方で、聞きたいこと、書きたいことが山盛りになって、紙面に収めるために泣く泣く編集するという、今までとは違った意味での難しさも体験しました。デジタル化の時代にあって、短いメッセージや数枚のイメージ写真で感動や思いを伝えることができる達人たちをうらやましく思います。

（43期 小幡）

■今回初めて伯友誌のインタビューを経験させて頂いた。50期吉田君と52期関本君のお二人にお願いすることができた。二人とも私とは全く違う人生を歩んでいて、私には経験することのできない領域で活躍されている。彼らと関わることが無ければ知ることすらなかった世界の話を聞いた。今回のインタビューを通じて彼らの世界を知り、興味を抱き、彼らが人生を通して追いかけていける物がかけがえのない物であると感じる。これからも六甲の豊富で多種多様な卒業生と話をさせて頂くことは、自分自身の見聞を広め思ってもみなかった道へとつながる、と予感している。このような機会を頂いた伯友会並びに松下委員長に感謝している。今回の体験を自分自身だけの物にするのではなく、活字にすることにより、卒業生にも届け、私が感じたある種の「衝撃」を共感頂ければと願う。今後も「衝撃」を与えてくれる六甲卒業生を探し、卒業生と想いを共有させて頂きたいと思う。

（以下吉田君へのインタビューを通して）

吉田社長は同学年とは思えないほど、考えを言葉にするのが速く、ついていけないぐらい頭の回転が速い。言語化能力が半端ではない。考えていることが時代の先を行っている。まさに「今の時代」を作り続けている経営者の生の言葉に触れ、頭の中が混乱した、というのが率直なところだ。多種多様でかつ深い内容を早い口調でスラスラと言ってのけるという頭脳の容量に感服した。私の日常の「働き方」とは違い過ぎていて、彼はどんどん「働き方」をアップデートしているのだと感じた。また「吉田浩一郎」自身が常にアップデートしていて、進化・変幻しているので、ウナギのようにつかみきれない男、という感じだ。次々と展開される真新しい話に終始翻弄され続けた。ブンデスリーガのバイエルンサッカーがバルセロナを翻弄し続けたごとく、我々は翻弄され続けた。

インタビューをしている間は、正直言って彼の話している内容の半分位しか理解できていなかった。録音を何度も聞いて文章にまとめたが、一語一語に宝物があるようであった。それにも拘わらず、それらは長い時間をかけて吟味された言葉ではなく、即興で一言一言がスラスラ流れるように出て来た。しかし、それらは恰も熟慮の末に最適な言葉のチョイスをしたかと思わせる連続であった。この能力は彼の日々の戦いの中から、議論を重ね・自問自答・挑戦・努力を通して獲得してきたスキルである。

また彼は人気の高いライブ動画番組“WEEKLY OCHIAI”にもたびたび出演する時代の最先端を走る経営者でもある。その吉田浩一郎も六甲教育と六甲の先生に感謝している一人である。理不尽を乗り越える力を養うという六甲教育の大切さを訴えていた。これは予想外であった。しかし、彼の考えには私も同感出来たし、他の広報委員会も同感していたと思う。これだけ時代の最先端を走る男の心の中にも「六甲」は生き続けている。また、「つらい時ほど六甲が人生を助けてくれる」という言葉を彼は述べているが、それは彼がこれまでの人生に於いて、幾多の理不尽を乗り越えてきた証である。その上で六甲に対して、「感謝」している。彼が心の中で六甲への感謝の気持ちを持ち続けていく限り、彼はますます成長・進化し、「六甲」も新たな価値を得て進化していく。

「六甲への心」が、今までの経営者にはない「何か」を持った経営者へと成長していき、社会の中の「理不尽」を、理不尽を乗り越える教育を受けた一人として彼が解決することによって、現代のトップランナーとして新しい未来を生み出していくことを願う。そして我々一人一人が彼を見て学び、自分自身を進化させていかねばならないと思う。

（広報委員会　50期　藤枝　誠）

■コロナ禍で、ちゃんと取材ができるのだろうかという不安からのスタートでした。COVID-19が私達にもたらした数少ないプラスの影響と言えるオンライン化の普及で、編集会議をリモートに取り入れました。その結果、カリフォルニア在住の森下副委員長にも参加して貰ったことがキッカケで、海外在住会員への取材も実現可能となりました。距離や時間、場所の障害なく、オンライン取材ができたことに、新たな可能性を感じました。取材にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

リモート取材は、今後も積極的に取り入れたいと思います。今後は国内外のいろんな会員と繋がりたいと企んでいます。

（42期　松下）

会員の皆様へ

■会誌「伯友」秋号の発送について

伯友会の会誌「伯友」の春号は会員全員に、秋号は会費納入者（その年の年会費を払った会員＋終身会員）に長年送付してまいりました。しかし経費削減の一環として、75号は会費納入者のうち「秋号の送付不要」とお申し出のあった方には送付を中止しました。その効果が限定的であったため、更に「秋号の送付継続を希望」するかどうか会員にお尋ねし、今回の77号は会費納入者で秋号の送付を希望する会員にのみ送付致しております。

広報委員会では、情報提供をホームページ等を通じて会員サービスの向上を諮っております。ご意見・ご質問・ご要望等ございましたら、伯友会事務局までご連絡下さい。

尚、秋号送付を追加で希望される方は事務局までお申し出下さい。

■会費納入のお願い

会員には会費の納入義務があります。会費は伯友会にとって重要な収入であり、伯友会運営にとって貴重な財源です。未納の方は是非とも納入して下さい。

〒 657－0068
兵庫県神戸市灘区篠原北町 1－8－25
伯友　太郎　様
（○○-○○-○○）

期　学年での番号　会費納入状況

宛名ラベルの見方：あなたの会費が何年度分まで納められているかは、宛名ラベルに記載されています。もしあなたが終身会員であれば、会費納入状況は『終身』となっています。2020年度分まで納入済みの方は『2020』となっています。また、会費納入実績がない場合は記載がありません。

年 会 費：伯友会年会費は3,000円です。会費未納期間が3年以上ある場合は、2年前に遡り本年度分を含めて3年分納入いただきます。

終身会費：終身会費は45,000円です。既に半数以上の会員が終身会員になっています。終身会員になると年会費の納入の必要がなく、毎年会費を納入する煩わしさもなくなります。また、過去の未払いの年会費を遡って徴収することもありませんので、終身会員になられることをお勧めしています。なお、今年度以降の会費を納入済みの方にはその分を45,000円から差し引かせていただきます。

■伯友基金について

伯友基金は六甲学院の教育活動と社会奉仕活動のために使用する目的で平成5年に設立された基金です。第3運動場のナイター照明もこの基金を利用して設置されました。

また、基金の一部から東ティモール聖イグナチオ学院奨学金プログラムの協力もしております。

しかしながら、本年度はまだ1件も寄附のお申し出がありません。伯友基金の理念にご賛同いただける方は、下記の口座をご利用ください。

■伯友奨学基金にご協力を

六甲学院からの要請を受け、「伯友奨学基金」を設立しました。昨今、学費に困窮する学生が増え、大学生の2人に1人が約300万円の負債を負って社会に出るのが日本の現状となっています。六甲学院も決して例外ではなく、奨学金を必要とする学生が年々増加しております。“家庭の経済的理由で六甲を去らねばならない後輩をひとりも出したくない”という思いで設立された奨学基金です。伯友会からの奨学金として、年間約50万円の授業料相当分を1人もしくは2人に給付していくことを目標としております。本年度は9件550,000円のご寄付をいただいております。途切れることなくご協力いただき、感謝申し上げます。これからも継続的な積み立てが必要です。引き続き基金へのご協力をいただきます様、よろしくお願いいたします。

＊ご入金の際には必ず期・氏名をメール又はＦＡＸで事務局までお知らせください。

＊寄付者のお名前は会誌の春号に掲載されます。匿名希望の方は併せてお知らせください。

■伯友会事務局からのお知らせ

伯友会事務局執務時間は年末年始とお盆の頃を除いて原則的に月・水・金曜日のP.M.1：00～P.M.5：00迄です。ご用件の内容によっては、即答出来ない場合もありますが、必ず調べた上お答え致しますので、ご遠慮なくご連絡下さい。

伯友会会費の納入は
●三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）1103520　口座名　六甲伯友会
●郵便振替
口座番号 01110 － 8 － 73016　口座名　六甲伯友会

伯友基金への振込は
●三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）3692900　口座名　伯友基金

伯友奨学基金への振込は
●三井住友銀行六甲支店（421）
口座番号（普通）4513835　口座名　六甲伯友会奨学金

伯友 77 号
発行日　2020年11月30日
発行人　藤本久俊
編　集　広報委員会
印　刷　㈱学術出版印刷
校　正　久井千岳

伯友会事務局
〒 657-0068
神戸市灘区篠原北町1丁目8番25号
六甲学院生徒研修所内
TEL.078-861-6588　FAX.078-861-6573
E-mail　office@hakuyu.jp

伯友
2020. 11 No.77

■発行人 藤本久俊
■編　集 広報委員会

伯友会事務局
〒657 神戸市灘区篠原北町１丁目８番25号
-0068 六甲学院生徒研修所内
TEL 078-861-6588, FAX 078-861-6573
Eメール: office@hakuyu.jp
ホームページ: www.hakuyu.jp

【ご案内】
COVID-19の影響で2020年度は中止となりました
2021年度は現在、鋭意準備中です

２　０　２　１　年　度
六甲伯友会　懇親会

2021年4月24日(土)

@神戸ポートピアホテル　南館１階

東京での
関東支部懇親会は
上智大学にて
開催方針
（日程未定）

平　成　塾　13:30-15:00
本館２F　のじぎくの間　講師：酒井俊弘 カトリック大阪大司教区 補佐司教（35期）

総　会　15:00-16:00
本館２F　のじぎくの間

懇　親　会　16:30-18:30
南館１F　大輪田の間　（16:00会場）

1.『53期の25年間』
卒業後、様々な業界・職種で頑張っている53期は何を語る？
2.『がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」生き方、考え方』
関本 剛（52期）

※ オンライン開催／オンライン参加を前向きに検討中
※ Social Distanceを確保した懇親会実現に向け模索中

【幹事グループより】
2021年度は53期が担当いたします。準備万端にも関わらず、COVID-19の影響により開催中止となった52期の先輩方からの熱いバトンを受けました。2年連続中止という寂しい事態にならないように尽力したいと思います。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。
53期：寺川智章、岩永昌寛、橋本慎吾、荒木大輔、末松喜吉、田村直嗣、柴田博和、井田求、小林紀雄